

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-05-09

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 若槻, 禮次郎 / 山口, 弘一 / 松岡, 義正 / 金井, 延 / 矢作, 榮藏

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-21

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-12-10

和佛法律學校講義錄

第三貳部

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3

破產法(自三〇五)法學士松岡義正

經濟學總論(自二九六)法學博士金井延

經濟學各論(自六九六)法學士矢作榮藏

國際私法(自四七七)法學士下村宏

現行租稅法論(自三一四)法學士若槻禮次郎

第三貳壹號

090
1900
2-1-21

財人ノ手ニ存セシメ以テ供託手續ノ煩雜ヲ避ケシメ若クハ管財人ニ於テ故ナ
ク供託ヲ遲延シタルトキハ供託ニ因リテ生スヘキ利息ヲ支拂ハナルヘカラズ
ルノミナラス不誠實ノ管財人トシテ解職セラルコトアリ(商法施行條例第四
二條商法施行法第一四七條破産財團中ニ現存シタル金錢モ亦同一理由ニ因リ
供託セサルヘカラス

三 破産財團ノ管理及ヒ換價ニ關スル破産主任官及ヒ破産裁判所ノ干與
資金ノ取立時效ノ中斷登記ノ記入等ノ如キ財團ノ保存行為ハ破産財團ヲ利ス
ルコトアルモ之ヲ損スルコトナキヲ以テ管財人ハ單獨ニ爲スコトヲ得然レト
モ關係人ノ利害ニ重大ノ關係アル處分行爲ハ管財人カ單獨ニ爲スコトヲ得ス
破産裁判所ノ決定若クハ破産主任官ノ認可ヲ必要トス是レ利害關係人ノ利益
ヲ擔保スルノ法意ニ基ケリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(A) 破産者ノ營業ノ續行 破産宣告ノ當時マテニ於テ破産者ノ爲シ來リタル營
業ヲ突然廢止スルハ顧客ヲ散失セシメ大ニ破産債權者及ヒ破産者ノ利益ヲ害
ス總破産債權ヲ完済スルニ十分ナル破産財團アルニモ拘ラス破産者ノ營業ヲ

廢止シ破産者ニ不利益ヲ被ラムルが失當ナルノミナラス總破産債權者ニ對シ何等ノ利益スル所ナシ又協賛契約ノ豫期セラルニモ拘ラス猶ホ營業ヲ廢止セハ爾後協賛契約ノ成立スルニ至ルモ破産當事者ニ對シテ何等ノ實益ナカルヘシ殊ニ營業ノ廢止ハ總破産債權者ノ共同擔保タル財團ヲ損スルモノト謂フヘシ是ヲ以テ法律ハ破産裁判所フシテ主任官ノ申立ニ因リ管財人ノ意見ヲ聽キ其當否ヲ判断シ決定フ以テ營業ノ續行ヲ許スコトヲ得セシメタリ管財人營業續行ノ許可アリタル場合ニ於テハ既ニ著手セラレタル營業行爲ヲ完成スルノミナラス矧ニ營業行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ殊ニ特別ノ認可ヲ要セシテ商品ヲ買入レ或ハ之ヲ販賣スルコトヲ得但ヨ營業續行ト雖モ財團ノ換價ノ爲メニスルモノナルヲ以テ管財人カ之ニ必要ナル行爲ニアラスンハ爲スコトヲ得サルヤ明カナリ管財人カ營業續行ノ許可ナキニ之ヲ續行シタルトキハ其營業行爲ハ無效ナリ何トナレハ是ハ管財人ノ權限外ノ行爲ナリハナリ而シテ之カ爲スニ生シタル損害ニ付キ管財人ハ破産債權者團體各破産債權者及ヒ破産者ニ對シテ賠償ノ責任ヲ負フ

破産者ノ營業ヲ續行スル場合ニ於テ管財人カ破産財團ニ屬スル物件ヲ通常ノ營業外ニ賣却スルヲ利益ト認メタルトキ例ヘハ書籍ノ流行漸次ニ衰フルニ至タルヲ以テ急速ニ賣却スルヲ利益トシ營業の賣却ヲ爲スニハ却テ保存費用ヲ要スル物件ナルヲ以テ急速ニ營業外ニ賣却スルヲ利益ト認メ主任官ノ認可ヲ受ケタルトキハ營業外ニ於テ賣却スルコトヲ得蓋シ營業外ノ賣却ハ關係人ノ利害ニ關係スルヲ以テナリ(第一〇一七條)

(B) 商法第千十九條ニ規定シタル行爲管財人ハ破産者ノ意見ヲ聽キ且ツ破産主任官ノ認可シタル後ニ非サレハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
第一訴訟ヲ爲スコト訴訟ヲ爲スコトハ管財人カ破産財團ニ關スル訴訟ヲ提起スルヲ謂ス破産債權ニ關スル訴訟ハ商法第千二十六條以下ノ規定ニ依ルヘキモノナルヲ以テ茲ニ所謂訴訟中ニ包含セス(商法第千十九條第一カ第五章財團ノ管理及ヒ換價ノ表題ノ下ニ在ルヲ以テ其意見ヲ解スルヲ得シ訴訟ハ法文上何等ノ區別ナキヲ以テ本訴反訴及ヒ督促手續ヲ指示スヘシト謂フヘシ即ち繼續シタル訴訟ハ訴ノ提起ニアラサルヲ以テ主任官ノ認可ヲ要セス

第二 和解契約又ハ仲裁契約ヲ取結フコト 仲裁契約ハ當事者ニ其間ニ成立シタル訴訟事件ヲ一名又ハ數名ノ仲裁人タル一私人ニ判斷セシムルノ合意ニシテ民事訴訟法第七八六條和解契約トハ當事者相互ノ讓歩ヲ以テ或權利ノ不確定若クハ其履行ノ不確實ヲ除去スルコトヲ目的トスル契約ナリ而シテ其種類ニハ裁判上ト裁判外トノ別アルハ既ニ諸君ノ知ラル所ナリ民法第六九五條民事訴訟法第三八一條

第三 質物ヲ受戻スコト 質物ノ受戻トハ別除請求權ノ目的物ノ受戻ニシテ民法上質權ノ目的物ノ受戻ト解スルハ狹キニ失ス質物ノ受戻ニハ其前提トビテ別除請求權ノ承認即チ破産財團ヲ減少スルノ原因アルヲ以テナリ

第四 債權ヲ轉付スルコト 債權ノ轉付トハ債權ノ取立ニアラス讓渡交換代物辨済相殺等ノ如キ通常ナル債權ノ換價ト異ナレル換價方法ヲ謂フ

第五 相續又ハ遺贈ヲ拒絶スルコト 漫ニ相續又ハ遺贈ヲ拒絶スルハ破産財團ノ增加ヲ害スルヲ以テ管財人ノ單純ナル職權ニ屬セス

第六 消費借ヲ爲スコト

管財人或委員會の單純職權ヲ違背

第七 不動産ヲ買入ルコト 即チ管財人カ破産財團ヨリ不動産ノ取得ニ對スル反対給付ヲ供シ又ハ供スル旨メ約ヲ爲スコトヲ得ス

第八 権利ヲ拋棄スルコト

第九 總テ財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト 即チ破産財團ニ屬スル財產ヲ擔保ノ目的物トシ債務者ノ變更ニ因レル更改ヲ爲シ破産債權者團體ヲ債務者ト爲ス更改貸借ヲ爲スカ如キ行爲ハ主任官ノ認可ヲ要ス別除請求權、別離請求權及び破産財團上ノ請求權ノ認諾ハ法律上明文ヲ缺クモ破産財團ノ減少ヲ來スヲ以テ主任官ノ認可ヲ要スルモノナルヘシ動產ノ相對賣却及ヒ營業續行ノ場合ニ於テハ營業外ニ破産財團ニ屬スル物件ノ賣却ニ關シテハ主任官ノ認可ヲ要スルコト前ニ述ヘタル所ナリ管財人カ此等ノ法則ニ反シ主任官ノ認可ヲ得シテ爲シタル行爲ハ權限外ニ涉ルヲ以テ無效ナリ民法第一一〇條獨逸ノ破産法ニ於テハ斯ル行爲ハ債權者集會若クハ債權者委員會ノ同意ヲ得ルヲ要スト規定シ且ツ此規定ハ破産債權者團體ト管財人トノ間ニ行ハレ管財人ト第三者トノ間ニ行ハレタル權利行爲ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニアラナルヲ以

ヲ管財人カ債權者集會若クハ債權者委員會ノ同意ヲ得シテ爲シタル行爲ベ
其相手方タル第三者ニ對シテ有效ナリ唯管財人カ職務違反トシテ之カ爲メニ
生シタル損害ヲ破産債權者團體ニ對シテ賠償スヘキノミ隨テ管財人ハ先ニ示
シタルカ如キ行爲ヲ爲スニ際シ債權者集會若クハ債權者委員會ノ同意アリタ
ル旨ヲ立證スルヲ要セス又行爲ノ有效ナム相手方タル第三者ノ善意タルコト
ヲ要セサレハナリ獨逸ノ破産立法例ハ取引ノ安全ヲ保フニ有益ナルヲ以テ立
法上正當ト信ス

第五節 破産財團ノ消滅

破産財團ハ破産債權者ノ平等的満足ヲ得セシムルノ用ニ供スル破産者ノ財產
ナルヲ以テ破産手續ノ終局ニ因リテ消滅スルヲ當然トス既テ破産手續ヲ協階
契約ニ因リテ終局シタルトキハ破産者タリシ債務者ハ破産財團タリシ財產ノ
占有管理及ヒ處分權ヲ同復シ又破産手續カ配當ニ因リテ終局シタルトキハ破
產者タリシ債務者ハ管財人ヨリ殘餘財產ノ返還ヲ受ケ而シテ管財人カ破産手
續者

第四章 破産宣告ノ效力

織機種中發見スルコト能ハナリシ破産財團ニ屬スル財產ハ完済ヲ得サル各破
產債權者ニ配當スルコトヲ得ヘシ蓋シ配當スヘキ破産財團ヲ配當セヌシテ終
局モ外モ下キハ未タ法理上破産手續ノ終局ト謂フコト能ハナレハナリ

破産宣告ノ效力ト既往ニ關スル效力即チ支拂停止ノ效力ヲ規定シ又之ニ基
テ説明ヲ爲スヲ常玉ス將來ニ關スル效力トシテハ或ハ債權者ニ對シ各別の訴
訟行為ヲ禁止シ債務者ニ對シ財產ノ管理處分權ヲ喪失セシムルカ如キ數多ノ
破産ニ關スル立法的目的ヲ述スルニ必要ナル效果ヲ規定スト雖モ唯之ノミヲ
以テハ債權者全體ノ利益ヲ保護スルニ不十分ナルヲ認メ既往ニ關スル效力ト
シテ破産宣告前ニ於タル或行爲ヲ或ハ無效トシ或ハ取消シ得ヘキモノト爲シ
タリ蓋シ破産宣告前且ツ支拂停止ヲ前後ニ於テ一定ノ期間内ニ爲シタル債務
者ノ或行爲ハ民法上ノ廢棄訴權ノ下ニ在ラムルヲ以テ債權者全體ヲ保護ス

ルニ十分ナリキ否ナノ問題ニ關シテハ債権者全體ノ利益ト社會的信用維持ノ利益トヘ互ニ調和スルモノニアラサガラ以テ即チ債権者全體ノ利益ノ爲メニ既往ノ行爲ヲ無効ト爲サハ取引ノ安全ヲ害シ社會ノ信用ヲ損ヘルニ至ルヲ以テ立法上ノ判定トシテ最モ困難ヲ極ムル所ナリ而シテ佛國學者ハ佛國千八百三十八年ノ法律ハ多年ノ経験ニ基キテ爲シタル適當ナル立法上ノ判定ナリト云ヘリ英吉利破産法モ亦既往ニ對スル效力ヲ認メ破産宣告ノ原因タル行爲カ其申立ヨリ遡リテ三箇月内ニ發生シタルトキニ限リ宣告ヲ爲シ其效力ヲ其原因タル行爲發生ノ日ニ遡及セシムルモノノ如シ英吉利破産法第四三條第四七條乃至第四九條(獨逸及ヒ瑞西ノ破産法ニ於テハ破産宣告ノ效力ハ其宣告ノ日時ヨリ發生スルモノノトシ)佛法系主義ヲ排斥シテ既往ニ關スル破産宣告ノ效力ヲ認メナリシ(獨逸舊破産法第一〇〇條同新第一一〇八條瑞西破産法第一七五條)蓋シ破産宣告ヲ受タヘキ境遇ニ在ル債務者ノ法律行爲ト雖モ苟モ破産宣告ノ效力トシテ財產ノ處分無能力者ト爲ル以前ニ於テ爲シタルモノナル以上ハ適法ニシテ且ツ有效タリトノ思想ニ基クア如シ然レトモ債権者保護ノ爲メニ債

權者ノ損害ニ於テ爲シタル破産ニ瀕スル債務者ノ行爲ヲ民法上ノ廢棄訴權ノ適用トシテ(民法第四二十四條若クハ其適用ノ擴張トシテ法律上特定ノ要件ノ下ニ於テ取消スコトヲ許シタリ前述シタル取消權ナムモノ即チ是ナリ(取引ノ安全ヲ保ツカ爲メ獨逸破産法ハノ制限ヲ附シ破産手續ノ開始ヨリ遡リテ六月以前ニ爲ナレタル行爲ハ支拂停止ヲ認識シタリトノ原因ニ因リ取消サレサルコトヲ獨逸破産法第二十六條ニ規定シタリ其他獨逸破産法第二十四條、二十五條參考蓋シ債務者ノ財產ハ總債權者ノ共同擔保タリ故ニ債務者ハ縱令自己ノ財產ノ自由處分權ヲ有スルト雖モ之カ爲ミニ債權者ノ全免又ハ其一員ヲ害スルニ至ルヘキ行爲ヲ承諾セナル義務ヲ負フ然ルニ之ニ反シテ斯ル行爲ヲ承諾シタルトキハ其相手方ハ之カ爲ミニ損害ヲ受ケタル債權者ニ對シ一ノ責ムヘキ不正行為ヲ爲シタリ縱合然ラスト爲スモ無償ニ破産者ノ財產ヲ取得シタルモノナル以上ハ専ロ損害ヲ防禦セントスル債權者ヲ適當ニ保護セナルヘカラス故ニハ許スヘカラサル行爲ニ對スル求償權トシテ(獨逸舊破産法第二三條、第二四條第三三條)ハ不當利得ニ基ク求償權トシテ(獨逸舊破産法第二五條)取消權

ヲ認メタルニ外ナラス(獨逸舊破産法第二三條以下瑞西破産法第二八五條以下
我商法ハ理論ヲ異ニシ結果ヲ同シウスル此ニ主義ノ何レニ屬スルヤ起草者ノ
説明條文ノ體裁等ニ據リ余輩ハ佛派ニ屬スルモノト認ム其他破産宣告ハ國際
上如何ナル效力ヲ生スルヤア研究セサルヘカラス故ニ以下本章ヲ三分シ將來
ニ關スル效力ト既往ニ關スル效力ト及ヒ破産宣告ノ例外的效力ヲ略述スヘシ
シ左ニ説明スヘシ

第一節 將來ニ關スル破産宣告ノ效力

本節ノ效力ヲ細別シテ(一)破産者ノ債権者ニ對スル效力(二)破産者ノ法律行為ノ
履行ニ對スル效力(三)破産者ノ債務者ニ對スル效力(四)第三者ニ對スル效力ト
シ左ニ説明スヘシ

(一) 破産者ノ債権者ニ對スル效力
破産手續ハ總破産債権者ニ平等ナル金錢の滿足ヲ得セジムルヲ目的トスルコ
トハ前述シタル所タリ故ニ此目的ニ適セザル破産債権者ノ各別的權能ハ之ヲ
制限セサルヲ得ス若シスル制限ナクンハ破産債権者ノ爲メニスル共同目的ヲ

達セント欲スルモ得ヘカラサルナリ隨テ破産債権者ニ對スル觀念ハ實ニ此觀
念ニ基クモノト謂フヘシ

(A) 強制執行ノ禁止 破産宣告ニ因リテ破産債権者ノ爲メニ新ナル法律保護
請求權カ成立スルモノニアラス破産手續ニ於テ新定ノ法定要件ノ下ニ法律保護
ヲ請求スル權利ハ已ニ破産手續ノ開始前ニ存在シ破産開始決定ハ單ニ其法定
要件ノ存在ヲ確認シタルモノニ外ナラサレハナリ然レトモ破産宣告ハ各破産
債権者ノ有スル訴ニ於タル法律保護請求權ヲ剥奪スルモノニアラス各破産債権
者ハ其權利ヲ破産手續ニ於テ主張シ又破産手續繼續中破産者ニ對シ民事訴訟
法ノ規定ニ從ヒラ主張スルコトヲ得故ニ破産者ニ對シ確認訴訟及ヒ強制執行
訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ之ニ反シテ破産宣告ハ各破産債権者ノ強制執行
ニ於ケル法律保護請求權ヲ制限シ破産債権者ヲシテ破産手續繼續中破産的強
制執行ニ依ルノ外他ノ執行方法ニ依リテ私權ノ満足ヲ享有スルニトヲ得セシ
メニ蓋シ破産債権者團體ノ爲メニ破産財團上ニ成立シタル破産的差押權ハ破
產債權者一箇人ノ爲メニスル強制執行假差押ノ執行等ニ依リテ害ヒラルルミ

ニアラサレハナリ第九八七條獨逸舊破産法第一〇條第二回新破産法第一一二條第一四條「ツチング民等ハ破産手續繼續中ハ破産者ニ對シ執行訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(確認訴訟ハ此限ニ在ラスト)」曰ヘリ是レ破産ノ原則上不能ナルモノナラズ被告タル破産者ハ執行訴訟ノ目的タル給付ヲ處分スルコト能ハアルモノナルヲ以テ訴ヲ大早計ニ失シタルモノトシテ却下セサルヘカラストノ論旨ニ基クモノナルヘシト雖モ損失分擔主義ノ實行ハ強制執行ヲ許サナルノミヲ以テ之ヲ全ウスルコトヲ得ルカ故ニ正當ノ見解ナリト謂フコトヲ得ス強制執行ノ禁止ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノタリ而シテ此禁止ニ反シテ債權者カ強制執行ヲ爲シタルトキハ管財人ハ民事訴訟法第五百四十四條ニ基キ異議ヲ申立テ及ヒ已ニ爲シタル執行處分ヲ無効ナリト主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ該禁止ハ例外ニシテ別除ノ請求權者別離請求權者及ヒ破産財團上ノ請求權者ニ對シテ效力ナシ何トナレハ此等ノ請求權者ハ破産債權者ニアラサレハナリ(第九百八十七條ニ所謂優先權ノ存スルニ非サレハ云云是ナリ獨逸舊破産法第四九條同新破産法第一一一條)

破産手續ノ開始ハ破産債權者ニ對シテ破産手續ニ依ル法律保護ノ外ニ何等ノ法律保護ヲ要求スルコトヲ許サナルノ原因ト爲ラヌ然レトモ同一ノ權利ニ付キ同時ニ二種ノ法律保護ヲ要求スルコトハ勞力費用及ヒ時間省略ノ原則ニ觸ルヲ以テ之ヲ許ササルヲ當然トス故ニ破産債權者カ其債權ノ届出ヲ爲シ破產手續ニ加入シタルニモ拘ラヌ破產手續中破産者ニ對シ起訴シタルトキハ破產者ハ權利拘束ト同性質ノ防禦方法ヲ提出シテ訴ノ許否ヲ爭フコトヲ得破産者カ債權調査會ニ於テ破産債權者ノ届出シタル債權ヲ争ロタルトキハ此限ニ在ラス何トナレハ破産手續ハ破産者ノ異議ヲ成功セシムルカ爲メノ手段ニアラナレハナリ又管財人及ヒ各利害關係アル債權者ハ破産債權者カ破産手續中破產者ニ對シテ爲シタル訴訟ノ目的タル債權ヲ届出シタルトキニ於テ其届出ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得權利拘束ハ裁判所カ職權ヲ以テ調査スヘキモノニアラサルヲ以テ訴若クハ債權ノ届出ヲ却下スヘキヤ否ヤノ論點ハ職權ヲ以テ調査スヘキモノニアラス(民事訴訟法第一九五條、第二〇六條)但シ債權者ハ法律保護ノ請求ヲ變更シ破産手續ニ依ル届出ヲ取下ケテ破産者ニ對シテ起訴シ又

反対ニ破産者ニ對スル訴ヲ取下ケテ其破産手續ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ得ヘシ何トナレハ法律ハ斯ル變更ヲ禁止セサレハナリ
管財人利害關係アル債權者及ヒ破産者カ前示ノ如キ防禦方法ヲ提出シ又破産債權者カ法律保護ノ請求ヲ變更セサル場合ニ於テハ同一ノ債權ニシテ破産手續ニ於テハ破産者ニ對シテ確定シ又訴訟手續ニ於テハ破産者勝訴ノ判決ニ依リテ破産者ニ對シテ成立セナルノ結果ヲ生スルハ當然ナリ斯ル場合ニ於テハ民事訴訟ニ於テ當事者カ權利拘束ノ妨訴抗辯ヲ提出セナリシカ爲メニ同一事件ニ付キ二以上ノ異ナリタル判決アリタル場合ニ行ハルル同一法理ニ依リ論結セサルヘカラス(余輩ハ舊法ノ廢スルノ原則ニ基キ以後判決ヲ以テ效力アリト論結スルヲ正當ト信スレントモゾイフヘルド民ハ先ツ民事訴訟法第四百六十九條第六即チ獨逸新民事訴訟法第五百八十條第七(2)ニ基キテ以後ノ行為ヲ攻擊シ其之ヲ爲サナル場合ニ於テ民事訴訟法第五百四十五條即チ獨逸新民事訴訟法第七百六十七條ニ基キ異議ノ訴ヲ以テ以前ノ行爲ヲ攻擊スルコトヲ得ヘシト主張シタリ) 但シ本件ノ處々モ前項手續ニ當ル者非存ヘタム勿論也。

同一ノ請求權ニ付キ同時ニ破産手續及ヒ其他法律保護手續トニ依ルコト能ハナルヲ以テ破産手續開始以前ニ破産者タル債務者ト破産債權者タル債權者ノ間ニ於テ占有スル債權ニ付キ訴訟カ繁屬シタルトキ破産手續ノ開始ニ因リ其訴訟ヲ中斷スルヲ當然トス(民事訴訟法第一七九條獨逸新民事訴訟法第二八八條同新民事訴訟法第二四〇條蓋シ破産手續ノ開始ノミヲ以テ訴訟ノ當事者タル債務者カ其相手方ノ破産手續ニ加入シ且フ之ニ依リテ破産手續ト其他民事訴訟手續トノ衝突ヲ惹起スルコトヲ保スルモノニアラス然レトモ債權者ハ破産手續ニ依ラント欲スルモノナリト推定スルヲ適當トス故ニ斯ル推定ニ基キ繁易訴訟ヲ中斷セシムルニ外ナラナルナリ
中斷シタル訴訟ハ債權者カ破産手續ニ加入シタル場合ニ於テハ其届出ヲタル債權訴訟ノ目的ニ對シ調査令ニ於テ債務者カ異議ヲ申立ナタル場合ニ於テ債務者ニ對シ受繼スルコトヲ得獨逸新破産法第一四四條第二項之ニ反シテ債務者カ破産手續ニ加入セサル場合ニ於テハ債務者ニ對シテ直チニ受繼スルコトヲ得訴訟ノ繁易ノキトキハ債務者ニ對シテ新訴ヲ提起スルコトヲ許サナルハ

前述ノ如ク是レ破産債権者團體ヲ害セサル範圍内ニ於テ債務者ニ對スル執行名義ヲ得ルノ必要アルカ爲メナリ而シテ破産手續ニ加入セシシテ直チニ債務者ニ對シ訴訟ヲ積行スルモ爲メニ破産手續ニ加入スル權利ヲ拋棄シタルモノト認ムヘカラス故ニ訴訟ヲ積行シタル債権者カ爾後破産手續ニ加入シタルトキハ同一ノ請求權ニ付キ同時ニ二箇ノ法律保護ノ請求ヲ爲シタルモノトシテ之ヲ取扱ハナルヘカラス

訴訟ノ中断ヘ破産手續ノ終局ニ依リテ終局ス但シ其以前ニ於テ訴訟ノ受職アリタルトキハ此限ニ在ラサルコトハ民事訴訟法第百七十八條ニ依リテ明白ナリ

各破産債権者ハ破産手續中ニ於テ強制執行ヲ爲スコト能ハサルニ止マルヲ以テ訴訟ノ提起又ハ繁屬訴訟ノ積行ニ依リ破産者ニ對シテ勝訴ノ判決ヲ受クルコトヲ得而シテ斯ル判決カ給付義務ノ確認ニアラスシテ其負擔ヲ命シタルモノナムトキハ其性質上破産手續ノ終局後ニ於テ執行シ得ヘキモノタリ該判決ハ破産手續ノ終局後ニアラスシハ執行スルコト能ハサルモノタルニ拘ラス假執

行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ルノ妨ト爲ラス何トナレハ假執行ハ判決カ故障又ハ上訴ニ關係ナク執行シ得ヘキ旨ヲ宣言スルニ外ナラサレハナリ(破産手續カ判決確定以前ニ終局シタル場合ニ假執行宣言ノ實益アリ)又執行文付與ヲ妨ケス何トナレハ執行文付與即チ強制執行命令ハ抽象的ニ執行ヲ許スヘキ旨ヲ表示スルニ止マリ破産手續繼續中ナルカ故ニ強制執行ヲ實施スルコトヲ得サルカ如キ現實的調査ハ執行機關ノ爲ス所ナレハナリ(即ち上記の如き事例ノ破産手續開始以前ニ於テ已ニ破産者ニ對シ開始セラレタル強制執行手續ハ爾後ノ破産手續開始ニ因リ其種行ヲ妨ケラルモノニアラス)○断スルモノニアラス(民事訴訟法第五五二條参考然レトモ破産手續繼續中ハ破産債権者各自ノ破産手續開始ニ於テ強制執行ヲ許サナルヲ以テ破産債権者タル差押債権者ハ債務者ニ對スル破産手續開始後ニ於テ強制執行ヲ爲スコトヲ得サルヤ當然ナリ故ニ管財人カ破産債権者自體ノ爲メニ已ニ開始シタル執行ヲ積行スルヲ得ルノミ是レ差押ニ因リテ生シタル利益ヲ破産債権者團體ニフルノ法意ニ外ナラス)本利破産法ハ差押ニ實權ノ效力ヲ認メタルヲ以テ差押債権者ハ別除權者ト

シテ管財人ニ對シ執行ヲ繼續スルコトヲ得セシメ(英太利破産法第二一二條
獨逸破産法亦然シ)獨逸舊破産法第一一條第二六條第一項第四一條第九同新
破産法第一四條、第十二六條第一項第四九條第九百耳義商法第四五三條和闐商
法第七七一條(西班牙民事訴訟法(第一一七三條、第一一八六條、第一三七六條瑞
典破産法第一〇條ノ如キハ執行手續ト執行費用トヲ全ク無用ナラシムルカ如
キ不經濟ノ結果ヲ避タル目的ヲ以テ執行手續ト破産手續トノ關係ヲ詳細ニ規
定シタリ我破産法ニ斯ル規定ヲ缺クハ立法上ノ缺點ナリ
(B) 財團ニ對スル利息ノ停止 破産債權ノ利息ハ其法定タル約定タルトニ拘
ラス破産宣告ノ日ヨリ破産財團ニ對シテ其發生ヲ止ムトハ我商法及ヒ多數ノ
立法例ノ採用シタル所ナリ(第九八九條獨逸新破産法第六三條第一佛蘭西商法
第四四五條第一項、白耳義商法第四五一條伊太利商法第七〇〇條、西班牙商法第
八八四條瑞西破産法第二〇九條但シ墺太利破産法第一七條同民法第一三三三
條第一三三四條等ニ依レバ反對ニ利息ヲ發生スト規定シタリ千八百六十九年英
吉利破産法第三六條ハ利息ノ停止ヲ明文ニテ規定シタレトモ現行破産法ニハ斯

ル明文ヲ缺ケリ然レトモ同一法意タルコトハ疑ナキト信ス其理由ハ佛流ニ計
算ノ便益ノ爲メニシ或ハ債權者間ニ平等ヲ維持スルニ在リト謂フモノノ如シ
ト雖モ(我商法カ破産ノ效力中ニ於テ利息停止ニ關スル規定ヲ設ケタルハ佛派
ノ見解ニ基キタルコト瞭然タリ余輩ハ寧ロ獨派ハ破産宣告以後ニ發生スヘキ
利息ハ將來ノ債權ニシテ破産宣告ノ當時ニ存在シタルモノニアラサルヲ以テ
破産債權ト爲ラン隨テ破産債權トシテ主張スルコトヲ得サルニ在リト謂フヲ
正當ト認ム(佛蘭西商法大家タアレル「ボアステル」「ローレン」「リオン」カソニ諸氏ノ
説明スル所ニ依レハ破産債權中ニ無利息ノモスト否トアリ又其利息ノ高低ア
リ斯ル場合ニ於テハ破産手續カ其終マテ多數ノ日時ヲ要スルト否トニ從ヒテ
有利息若クハ高利息額ノ債權者ハ利ヲ受ケ他ノ債權者ハ不利息ヲ受クルノ不
公平ヲ生ス又計算上不便ヲ來シ手續ノ終局ヲ淹滞セシムルノ處アリト)
是ヲ以テ第一ニ前拂セラレタル利息ニ關シテハ期限ニ至ラサル債務ノ支拂ト
シテ破産財團ニ對シテ當然無効ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ此種ノ債務者ハ其
受取リタル破産宣告以後ニ係ル利息ヲ財團ニ返還セサルヘカラス第二ニ元本

ニ利息ヲ加算シ券面ニ其金額ヲ記載シタルトキ(例へハ金百圓ノ貸借關係ニ於テ手形ヲ振出シ其手形面ニ利息ヲ加算シテ金百六圓ト爲シタルノ類)ニ於テ債務者カ其義務履行期前ニ破産宣告ヲ受ケタルカ爲メニ債權者ハ其債權ヲ主張スルニハ券面額ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ得ルヤ或ハ破産宣告以後支拂期マテノ利息ヲ扣除スルヤノ問題ニ關シ多數ノ學者殊ニ「リオンカン」「アロゼーブラベル」民等ハ債權額中主從ノ區別ヲ爲シ之カ減額ヲ得ルハ困難ニシテ且ツ煩雜ナリト云ヘル實際的理由ト善意ニ債權ヲ取得シタル第三者ニ對シ之カ減額ヲ爲スハ失當ナリト云ヘル理由ニ基キ消極的ニ論決シタルレドモ余輩之理論上積極的ニ論決スルヲ正當ト認ム何トナレハ利息カ券面上元本ト併記セラレタルノ故ヲ以テ其進行ヲ破産財團ニ對シテ繼續スト云フハ故ナシ學者カ前示ノ原則ニ反スル例外ヲ設ケタルニ外ナラサレハナリ千八百三十八年佛國ニ於テ此說ニ基ク修正案ヲ提出セラレタルニ議會ノ否決スル所ト爲リタルハ大ニ遺憾ナリト謂ハサルヲ得ス第三ニ期限附債權ヲ其期限到来以前ニ支拂ハシムルカ爲メニ割引ヲ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ債務者カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ債權

者ハ其債權全額ニ付キ破産手續ニ加入スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ニ關シ或學說ハ割引ヲ認メタル結果トシテ債權額ハ債權者ニ於テ元本ノ使用スルヨリ生スル利息ヲ包含シ單純ナル元本額ヲ表影スルモノニ非ス隨テ割引スヘキ金額ヲ扣除シタル殘額ニアラスンハ破産手續ヲ加入スルコトヲ得スト論決スト雖モ余輩ハ多數ノ學說殊ニ「リオンカン」「ラバールト」「ナミニュ」氏等ト共ニ反對ニ論結スルヲ正當ト認ム何トナレハ割引ハ特定期間内ニ支拂ハレタナレハトノ條件ニ繫ルモノニシテ又破産宣告若クハ破産手續ニ依レル配當ハ斯ル支拂ト同視スルコトヲ得タル結果トシテ條件ノ成就シタルモノト認ムルコトヲ得ス随テ割引ヲ爲スヘキモノニアラサレハナリ第四ニ主タル債務者ノ支拂フヘキ利息ノミヲ擔保シタル保證人カ破産宣告ヲ受ケタルトキハ各支拂期ニ主タル債務者ノ支拂フヘキ利息總額ハ破產者タル保證人ニ對シテハ元本ナルヲ以テ債權者ハ此全額ニ付キ破産手續ニ加入スルコトヲ得然レトモ主タル債務者ヨリ利息ノ支拂アリタルトキハ停止條件附債權ニ處スル方法トシテ利息ヲ發生セシムルカ爲メニ供託シタル配當額ハ各債權者間ニ分配セラル第五ニ終身定

期金ニ關シヲハ種種ノ學說アレトモ終身定期金ニ該當スル法定利息ヲ發生ス
ヘキ元本額カ即テ破産手續ニ於テ主張スヘキ請求權ナルヲ以テ該額ヲ終身定
期金ヲ支拂フカ爲メニ供託シ債權者カ死亡シタル時ニ當リヲ之ヲ各債權者ニ
配當スヘキモノト信ス(民法第六八九條瑞西破產法第二一〇條同債務法第五二
二條)

破產宣告以後ニ於テ發生スヘキ利息ハ破產債權ニアラサルヲ以テ破產財團ニ
對シテ主張スルコトヲ得ナルノミ破產者保證人其他ノ其同義務者ニ對シテ其
發生ヲ止ムルモノニアラス故ニ破產者ハ破產宣告以後ニ於ケル利息ヲ支拂フ
ヘタ又之ヲ支拂フニアラスンハ後權ヲ許ナレス(第一〇五五條(備ノリオンカン)
氏ハ破產財團ヲ以テ元金ノ配當ヲ爲シタル後尚ホ餘アル場合ニ於テ之ヲ管
財入カ破產宣告以後ニ發生シタル利息ノ支拂ニ充用スト云フモ余輩ハ反對ニ
論決スルヲ正當ト認ム何トナレハ破產財團ニアラサル剩餘ヲ破產債權者ニア
ラサル者ニ辨濟スルハ賃財人ノ職權外ニ涉レハナリ而シテ破產者ノ支拂フヘ
キ利息ハ法定ナルト約定ナルト又破產宣告以前ニ已ニ進行ヲ始メタルト破產

宣告以後ニ於テ始メテ進行ヲ始メタルトヲ間ハサルナリ故ニ無利息債權ニ關
シヲ亦遲滯後(民法第四一二條但シ同條末項ノ履行ノ請求ハ債權届出ニ該當ス)
且ツ破產宣告以後ニ發生スル利息ニ付キ破產者ハ支拂義務アリ
又保證人其他ノ共同債務者亦破產宣告以後ノ利息ヲ辨濟セサルヲ得ス
質權抵當權其他ノ優先權ヲ以テ擔保セラレタル債權ヘ其擔保ノ目的ノ賣拂代
金ヨリ辨濟セラバ爾場合はニ於テハ破產宣告以後ニ發生シタル利息ヲ其發生カ
已ニ破產宣告前ニ在リタルト又ハ破產宣告以後ニ在ルトヲ間ハス賣拂代金ノ
存スル限ニ於テ元金ヨリ先ニ支拂ハサルヲ得ス(民法第四九一條蓋シ優先權ハ債
務者カ財產上不如意ノ地位ニ陷リタル場合ニ處スル擔保手段ナルヲ以テ斯ル
支拂ヲ爲スハ優先權ノ效果ト謂フヘケレハナリ(斯ル論結ハ賣拂代金カ元利完
済ニ不足ナル場合ニ於テ其不足額ニ付キ優先權ヲ有スル債權者カ普通債權者
トシテ破產手續ニ加入スルカ故ニ破產宣告以後ノ利息ハ優先權者ノ爲メニ破
產財團ヨリ支拂ハレ普通債權者カ破產宣告以後ニ於テ發生スヘキ利息ヲ主張
シ得ナルコトハ優先權者ノ利益ニ障スルノ結果ヲ呈ス(イリテ元本ヲ先ニ支拂

（C）破産債権ノ請求權發生カ辨濟期ノ未タ到達セサル債権ハ債権者ハ賣拂代金ノ外ニ於テハ普通債権者ニ外ナラサレバ以テ破産宣告以後ニ於ケル利息ヲ請求スルコトヲ得サル（當然ナリ第九八九條）

（C）破産債権ノ請求權發生カ辨濟期ノ未タ到達セサル債権ハ債権者ノ破産宣告ニリ辨濟期ニ至リタルモノト爲ルハ前述シタル所ナリ又條件ノ未タ成就セサル債権ハ債務者ノ破産宣告ニ因リ如何ナル取扱ヲ受クルヤノ問題ハ亦前述シタル所ナリ（第九八八條第一項而シテ所謂辨濟期限ニ至リタルモノト爲ルコト即チ有期債権ノ請求權發生ハ如何ナル者ニ對スルヤ此問題ニ關シテハ佛蘭西商法第四百四十四條、奧太利破產法第十六條等ハ破產者ニ對スルモノナルコトフ明言シ獨逸新破產法第六十五條第一項及ヒ瑞西破產法第二百八條ハ單ニ有期債権カ又ハ破產者ノ債務者カ支拂ハルヘキ旨ヲ明言スルニ止マリ如何ナル者ニ對スルカヲ明言セス然レトモ學者ノ説明トシテハ有期債権ノ要求權ノ發生ハ破產財團ニ對スルモノニシテ且ク有期債権者ニ認許スルカ爲メニ存在スルノミ破產者其人ニ對シテハ固ヨリ存在スヘキモノニアラス體テ破復スルコトアルヤ亦測リ知メカラナルナリ

（三三）以上述ヘタル所ノ理由ニ據リ公私利害ノ衝突益々劇甚ト爲ルニ至リ其結果トシテ鐵道其他同様ノ性質ヲ帶ヒタル交通機關ヲ國有ト爲スヘシトヘ議論盛ニ起レリ此議論ニハ固ヨリ他ニモ種種ノ理由アリト雖モ公私ノ利害相衝突スルカ爲メ公益ヲ維持セント欲スル希望其主タル理由ナリ故ニ將來或事物ニ對シテハ商人ノ所有權全ク認メラレスシテ財產共有制度ノ舊時ム復スルコトアルヤ亦測リ知メカラナルナリ

第二編 經濟學ノ定義

凡ソ定義ハ簡單ニシテ明瞭ナルヲ要スルモノナレハ之ヲ與フルコト甚タ難シ今夫レ家財器具ノ如キ極メテ單純ナル物品ニテモ之ニ適當ナル定義ヲ與ヘントスルヤ多少ノ困難ヲ見サルナシ況ヤ學問ノ定義ヲ與フルニ於テフヤ尙ホ且ソ況ヤ人類ニ關スル學問ノ定義ヲ與フルニ於テフヤ而シテ經濟學ハ複雜至極ノ人類社會ニ關スル現象ヲ研究スル學問ナリ今之ニ定義ヲ與ヘントスルニ當リ子ハ自ラ誰ヨリモ能ク其非常ニ難クシテ到底完全ナルモノヲ得ヘカラナル

ヲ知レリト信ス故ニ此所ニハ唯假ニ定義ヲ掲ケ置カント欲スルニ過キス（一）然レトモ是ヨリ進ミテ斯學ヲ講究スルニ當リ豫メ子ノ經濟學ノ全體ニ關スル

（二）經濟學ノ人類社會ニ關スル學問ナルコトハ未タ明カニ言ハナリシト雖モ其然ルコトハ是マテ述へ來リタル所ニテ略ホ知ルコトヲ得ン而シテ人類社會ニ於ケル原因結果ノ關係ハ甚タ複雜ニシテ或ハ一ノ結果ハ數箇ノ原因綜合シテ始メテ生スルヲ當トス經濟學ハ此ノ如キ複雜ナル人類社會ニ關スル學問ナルカ故ニ之カ完全ナル定義ヲ得ンコトハ殆ト望ムヘカラス故ニ此所ニハ唯假ニ定義ヲ掲クルニ止メントス歐洲人ノ談ニ最初ノ原則ハ最終ノ原則ナリト云フコトアリ是レ人人不誠ニ明白ナリトシテ毫モ疑ハス之ニ據リ進ミテ他ノ議論ヲ立タル基礎ト爲ス原則モ之ヲ仔細ニ研究スルトキハ疑感隨テ生シ却テ最後ニ至リテ始メテ之ヲ了解スルコトヲ得ルモノナルコトヲ意味シタル諺ナリ此ノ如キ事ハ哲學ノ研究杯ニ於テハ屢々之アルコトナリ而シテ多クノ學問ハ最初ニ定義ヲ掲クルヲ順序トスレトモ是レ説明上ノ便宜ニ過キズシテ定義ハ初ヨリ知ルコトヲ得ヘキモノニアラス其學問ヲ研

究シ終リテ茲ニ始メテ定義ヲ下タスヘキモノトス然スルモ尙ホ完全ヲ期スヘカラサルハ誠ニ已ムヲ得サル次第ナリ（註一）此ノ點ニ就キ、既非所謂人觀念ハ如何ナルモノナルヤフ簡單ニ述ヘ置カサレハ後ニ至リ意外ノ不都合ヲ生センモ知ルヘカラサレハ不完全トハ知リナカラモ先ツ假ニ之カ定義ヲ與ヘント欲ス若シシ夫レ完全ナル定義ニ至リテハ以下述フル處ニ據リ經濟學ノ全體ヲ知リテ而シテ後之ヲ知ルコトヲ得ヘシ但シ之ヲ知リ得タレハトテ完全無缺ノ定義ヲ與フルハ到底爲シ得ヘカラナルコトナリ總テ定義ハ單ニ便宜ノ爲メ與ヘラルモノニシテ不十分タルヲ免レサルモノナリト覺悟セサルヘカラス（二）

（三）右述フルカ如キ理由ナルカ故ニ經濟學ノ定義ヲ與フルコトハ甚タ困難ナリ然レトモ元來學問ノ定義ナルモノハ研究ノ便宜上之ヲ與フルニ過キタルモノナレハ以上經濟學ノ根本概念ヲ講シ丁リタルヲ以テ講學ノ便宜ヲ圖ルカ爲メ不完全ナカラモ茲ニ定義ヲ下シント欲ス經濟學ノ何タルヤフ知ラント欲セハ先ツ經濟トハ如何ナルコトヲ言フヤフ知

ラサルヘカラス經濟トハ泰西ノ學問ノ未タ本邦ニ開ケサル以前ニ於テ已ニ存在セル言語ナレトモ之ニ學ノ字ヲ附シテ英語ノ「ボリチカル、エコノミー」ニシタルハ大凡ソ三十年前ノ事ナリ而シテ經濟ノ二字ハ世間普通ニ用フル所ノ意義ニ依レハ儉約節儉等ノ意義ヲ有ス然ルニ儉約節儉ヲ爲スニハ一身ノ善ク修リ一家ノ整頓シ秩序アルヲ要スルコトナレハ此語辭ハ自然事物ノ秩序ト云フ意味ヲモ包含ス例ヘハ彼ハ經濟家ナリ是ハ經濟主義ナリ宇宙萬物自ラ一定ノ經濟法アリナトト云フ場合ニ於テハ經濟ノ二字中ニ此等ノ意義包含セラルコト明白ナリ(三)西洋語ノ「エコノミー」モ亦秩序整頓ノ意味ヲ含ミ和合(三)經濟學ノ如何ナルモノナルヤラ述述フル前ニ經濟トハ如何ナルコトナルカヲ説明セサルヘカラス經濟ヲ言葉ハ本邦ニ未タ泰西ノ學問輸入セラレサル以前ヨリ存シタルモノナレトモ經濟學ヲ三字ヲ以テ「ボリチカル、エコノミー」ニ適用スルニ至レルハ今ラ距ル三十年前ノ事ナリ此「ボリチカル、エコノミー」ヲ語ハ英米ニ用ヒラレン佛獨等ニ在リテハ之ト同一ノ意味ヲ有スル他ノ語ヲ用フ而シテ經濟學ヲ語ノ用ヒラルニ至リシヨリ以前ニ既ニ

存在セル經濟ヲ熟語ハ儉約節儉等ノ意義ニ用ヒラレ隨テ事物ノ秩序ト云フ意義ヲモ包含ス
致等ノ義ヲモ有ス而シテ又此語ノ起源ヲ尋ヌレハ希臘語ノ「オイコス」[οἶκος]ノモ「ノ二語ヨリ出ツ「オイコス」[οἶκος]ハ家ニシテノモス」[τοῖος]ハ法則ナリ即チ「エコノミー」ハ家ノ法則ニシテ家法又ハ一家ノ秩序整頓ト云フ意義ノ語ナリ之ヲ主觀的ニ言ヘハ一家ノ法則ニ關スル學問若クハ一家整頓ノ術ヲ指スモノナリ後之ニ「ボリチカル」ヲ語リ冠セシメ一家ノ上ニ位スル一村一町一市一縣一府一國等ノ公共團體ニ適用スルニ至レリ即ナ小ヨリ起リテ漸ク大ナルモノニ推移タレタルモノナリ(四)

(四)經濟ヲ語ハ儉約秩序等ノ意味ヲ有スルコト已ニ述ヘタル所ナルカ英語ノ「エコノミー」モ亦之ト同一ノ意味ヲ有セリ而シテ此「エコノミー」ハ希臘ノ「オイコス」[οἶκος]ノ二字ヨリ變遷シ來リタルモノニシテ「エコノミー」ニ冠スルニ「ボリチカル」ヲ語ヲ以テスルニ至リ茲ニ始メテ公共團體ノ經濟ヲ意味スルコトト爲レタ

之ニ反シテ本邦並ニ支那ニ於テハ經濟ノ語廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小ニ推移リタルモノト謂フヘシ何トナレハ支那ニ於ケル。經ノ字ノ使用法ヲ見ルニ易ノ屯卦ニ君子以經倫トアリ周禮ノ天官ニハ大宰以經邦國トアリ其註ニ經法也。王謂之禮經所常秉以治天下者也ト曰ヘリ又左傳ノ昭公二十五年ニ爲夫婦外内以經二物トアルヲ註ニ夫治外姦治内客治其物ト解セリ而シテ詩ノ大雅ニハ經之營之トアリ其他常ニ經緯、經度、經紀、經手云フヨリシテ推スニ經ノ字ハ動詞トスレハ治ムルノ義ニシテ名詞トスレハ治道ノ常則ヲ指シ其中ニ自フ一致和合整理秩序等ノ意味ヲ有スルコト明カナリ(五)次ニ濟ノ字ハ齊ノ字ニ通シ定、調等ト(五)經濟ヲフ語ハ初メ支那ヨリ起リ後本邦ニ傳ハリタルモノニシテ廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小ニ移リタルモノナリ本文ニ掲ケタル諸書ノ例ヲ見ルモノノ字ノ法ノ字ノ意味ヲ包含スルコト誠ニ明白ナリ但シ法トハ今ノ所謂法律トハ少シク異ナリ治ムル大道ト云フカ如キ意義ヲ有スルモノナリ而シテ又此經ノ字ヲ動詞トシテ使用シタル例ニ據リテ之ヲ觀レハ此字ハ治ムルト云フ意義ヲ有スルモノト謂フヘシ故ニ此字ハ動詞トシテモ名詞トシテモ左マテ

大ナル差異ナク一致、和合、整理、秩序等ノ意義ヲ包含スルモノニシテ歐語ノ「エコノミー」ト同様ノ意義ヲ有スルモノトス(五)三十一年(清・嘉慶二十一年)英國人麥克唐納著
同様ノ意義ヲ有シ經ノ字ト大ニ異ナルコトハナシ而シテ二字ヲ連用シテ經濟ト言ヘハ西洋語ノ「エコノミー」ニ善ク當レリ支那ニ於テハ秦ノ時代ヨリ經濟人熟語ヲ以テ直チニ天下ヲ治ムルノ義若クハ天下理財ノ道ニ適用セリ(六)
(六)濟ノ字ハ齊ノ字ト意義相通シ定、調等ト同一ノ義ヲ有ス即チ治ムル整タル杯ト謂フカ如シ現今ノ如ク文字ノ發達シタル時代ニ於テハ故ラニ此ノ如一ギ同一ノ意味ヲ有スル二箇若クハ二箇以上ノ文字ヲ同一義ニ用フルコト餘リナキモ往昔ニ在リテハ此ノ如キ實例之シカラス而シテ經濟トノ二字ハ歐語ノ「エコノミー」ト相一致ス固ヨリ一字ツツ別別ニテモ適用サレサルニアラサルモ秦ノ時代ヨリ經濟民ナル熟語アリテ之ヲ天下ヲ治ムルノ意義ニ用ヒタリ即チ今日ノ所謂財政ノ事ハ勿論單ニ是ソミナラス尙ホ之ヨリモ一層廣キ意味ニ用ヒタルモ國家經營ノ策ハ財政ヲ以テ最モ重シトスルカ故ニ財政人事ニ經濟ノ語ヲ用フルニ至サシナラ然レトモ此說ハ當時未タ今日ノ如

タ民間ノ經濟事業ニハ用ヒラレサシナリ

本邦ニ於テモ亦然リ往時大宰純一書ヲ著シ之ヲ經濟錄ト名ク之ヲ讀ムニ其論スル所ハ皆治國平天下ノ術ナリ後世ノ人皆此二字ヲ同様ノ意義ニ用ヒ富國強兵ノ策ヲ論スルヲ以テ直ニ經濟ヲ語ルモノト爲セリ是ヨリ經濟ノ意義稍ヤ狹隘ト爲ルニ至レリ泰西ノ文物我國ニ入リテヨリ以來此熟語ヲ以テ財ヲ理メ國家ノ生存繁榮ヲ計ルニ必要ナル原理原則ヲ研究スル學術ニ用ヒ又一轉シテ一家ノ家計ニマテ及ホスニ至レリ故ニ本邦並ニ支那ニ於テハ經濟ノ意義大ヨリ小ニ推移シ廣キヨリ狹キニ適用サレタルモノト謂フヘシ(古)

(七) 我國ニ於テモ往時大宰純ノ經濟錄中ニ論スル治國平天下ノ術ノ如キハ今日ノ經濟學中ニ論ヒラルノ財貨ノ原理原則トハ固ヨリ異ナリ廣々政治一段ヲ謂フカ如シ而シテ天下ヲ治ムルニハ富國強兵ヲ主要トセルカ故ニ遂ニ後者ノ策ヲ論スルヲ經濟論ト曰フニ至レリ其後尙ホ下リテ一家一身ノ事ニモ經濟ヲフ語ヲ用フルコトト爲レリ加フルニ三十年前ニ泰西ノ學問入り來タルニ及ヒ其中ノ財ニ關スル學問ニ我國ニ從來存セル經濟ヲ熟字ヲ用ヒ

結ハント欲セハ勢一部ノ競争ヲ斷念セサルヘカラス其レ故ニ大企業者ノ際追甚タ強ク之ニ對抗スルニハ小企業者ハ相互ニ一部ノ競争ヲ断念シ一致團結シテ大企業ニ伴フ好條件ヲ利用スルノ外ヒニ方便ナキコトヲ悟リタルトキニアラサレハ此種類ノ組合ハ發生セサルナリ又愈々組合ヲ設立スルニ當リテハ組合員ハ共同ニ得タル利益ヲ分配スル方法ヲ協定セサルヘカラス其レ故ニ此種ノ組合ハ組合員タルヘキ者カ自己ノ生産業ニ付テ十分ナル技術上ノ智識ヲ有スルト同時ニ其產業ノ經濟上ノ事情ヲ判断スル見識ヲ具フルニアラサレハ成立セサルナリ此組合ハ現世紀ニ於ケル大企業ノ小企業ニ對スル壓迫ニ由リテ次第ニ増加シタリト雖モ其數ハ尙ホ遙ニ消費組合ニ及ハサルナリ第三種ノ組合ハ労働者ヲ結合シテ之ニ労働者タルト同時ニ獨立ノ企業者タル地位ヲ得セシムルコトヲ以テ目的トスルモノナリ

此組合ハ一方ニ於テ組合員ニ對スル要求ノ條件甚タ多ク之ト同時ニ他ノ資本的企業ノ競争ニ堪フルコトヲ要スルカ故ニ現近ノ有様ニ於テハ其適用ノ範圍ハ甚タ狹隘ナルモノナリ

此組合ニ加入スル者ハ自己ノ身心及ヒ財産ノ全體ヲ組合ノ事業ニ投入セサル
ヘカラス組合員ニ組合ノ經營及事業ニ關スル技術上並ニ事務上ノ才能ヲ具
ヘサルヘカラス而シテ此等ノ才能ハ事業ノ擴張ニ伴フテ益大ナルヲ要ス又此
組合ハ一部ノ組合員ニ管理權ヲ委于他ノ組合員ヲシテ之ニ服從セシメサルヘ
カラス又社會的ノ目的ヲ達セんカ爲メニ多少經濟上ノ利益ヲ放擲セサルヘカ
ラス(例ヘハ從業者ノ保護ヲ厚クシテ業務ノ繁榮ニ伴フテ新ナル組合員ノ加入ヲ
許ササルヘカラス)斯タセサルトキヘ此組合ハ一種ノ株式會社ノ如キ資本的組
合ト爲ルノ恐アレハナリ又此組合ニ加入スル者ヘ勢ヒ薄資者ニ限ラルヘシ(有
産者ハ此ノ如キ組合ニ投シテ多數ノ薄資者ノ抑壓ヲ蒙ルノ愚ヲ爲ササルヘシ)
此ノ如キ事情ノ下ニ組合ノ發達ヲ望ム能ハサルハ亦已ムヲ得サルナリ多クハ資
本ノ缺乏業務上ノ智識ノ缺乏組合員ノ不規律ノ爲メニ忽チ起リテ忽チ倒レ幸
ニ殘存スルモノハ經濟上ノ利益ヲ主トスルカ爲メニ一種ノ資本的企業ト化シ
去ラサルモノハ甚ダ稀ナリ小企業者ハ此ノ一端ノ障壁セラセタラニ一層困難
公ノ企業、公ノ法人、財政上ノ目的ノ爲メニ例ヘハ烟草鹽酒等ノ專賣ノ如キ

或ハ公共ノ利益ノ爲メニ例ヘハ森林農地、鐵道、水道等ノ事業ヲ自ラ經營スル
コトアリ此事ニ關スル説明ハ後段社會政策ヲ論スル部分及ヒ財政學ニ譲リテ
茲ニ之ヲ説明セス

第二編 貨財交易論

第一章 貨財ノ交換

交換トハ合意ニ基キ一人カ他人力ヨリ或貨財ヲ取得シ其對價トシテ其者ニ或貨
財ヲ與ヘ相互ニ其經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ
(一)交換ハ合意ニ基ク行爲ナリ
甲ハ乙ニ或貨財ヲ與ヘ乙ハ又其對價トシテ甲ニ或他ノ貨財ヲ與ヘタルハ雙方
共ニ他ヨリ束縛ヲ受ケス各其自由ナル意思ノ合致ニ基キテ爲シタルモノナラ
タルヘカラス

註 公用徵收ハ交換ニアラス 公用徵收ハ一方ニ於テハ或貨財ノ所有權ヲ
移シ他方ニ於テ之ニ對スル價格ノ賠償トシテ金錢ヲ與フルカ故ニ其形ニ於

ヲハ交換ニ類似スル所アリト雖モ交換ノ如ク合意ニ基クモノニアラス國家
カ其命令權ノ作用ニ由リテ自己ノ意思ノミニ因リテ之ヲ行フモノニシテ所
有者ノ同意ヲ要スルモノニアラサルナリ

(二)交換ハ他人ヨリ或貨財ヲ取得シ其對價トシテ其者ニ或貨財ヲ與フル行爲ナ

交換ニ於クハ當事者雙方ヨリ貨財ノ移轉ナルヘカラス而シテ一方カ他方ニ
其所有ノ貨財ヲ與フルハ其者ヨリ或他ノ貨財ヲ得ンカ爲メナラサルヘカラス

(三)交換ハ經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲ナリ

人カ交換ヲ爲スハ自身ニ取リテ效用少キモノヲ他人ニ與ヘ其人ヨリ更ニ效用
多キモノヲ得ンカ爲メナリ例へハ自ラ之ヲ消費スル時ハ一定量ノ快樂ヲ感ス
ヘキ自己ノ所有物ヲ犠牲トシテ更ニ多量ノ快樂ヲ感スヘキ物ヲ得以テ快樂享
受ノ分量ヲ增加セントスルニ在リ而シテ此快樂享受ノ增加ハ即チ經濟上ノ利
益增加ニ外ナラス

(四)交換ハ當事者相互ニ其經濟上ノ利益ヲ增加スルコトヲ以テ目的トスル行爲

ナリ
人ハ極メテ多數ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ然レトモ一定ノ貨財獲得ノ
請願ニハ一定ノ限界アリ其限界内ニ於クモ或貨財ノ一定量ノ與フル快樂ノ分
量ハ其初ニ於ク最も多ク次ニ來ル所ノ同一量ノ與フル快樂之ニ次キ第三ニ到
ル所ノ同一量ノ與フルモノ又之ニ次ク此ノ如ク貨財ノ分量累加スルニ隨ヒテ
人ノ享受スル快樂ノ分量モ亦累加スト雖モ快樂增加ノ割合ハ貨財ノ分量增加
スルニ隨ヒテ益減少し其極其上ニ貨財ノ分量ヲ添加スルモ少シモ快樂ヲ增加
セナルノ點ニ達スヘシ換言スハハ或種ノ貨財ヲ得タル分量增加スルニ隨ヒテ
之ヲ得ンコトヲ欲スル強度ハ益減少スルモノナリ然ルニ人ハ種種ノ欲望ヲ有
シ隨テ極メテ多數ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ故ニ人ハ或貨財ノ既得分
量極メテ多ク新ニ同種ノ貨財ヲ取得シ之ヲ消費スルモ少シモ快樂ヲ增加セ
ナルニ至リタルトキヘ勿論事茲ニ至ラナルモ其貨財ノ一定量ヲ得タル後ハ更ニ
同種ノ貨財ヲ得ルヨリ寧ロ他種ノ貨財ヲ得ンコトヲ望ムモノナリ前ニ述ヘタ
ル如ク人ノ或貨財ヲ得ンコトヲ欲スルノ程度ハ同種ノ貨財既得ノ分量ニ關係

ズルモノナリ故ニ天然又ハ社會上ノ原因ニ由リ或二人ノ所有スル貨財ノ種類及ヒ分量ニ等差アルトキハ雙方共ニ自己ノ所有物全體ヲ消費スルヨリハ兩者ノ間ニ物品ノ授受ヲ爲シ有無相通シア然ル後新ナル資產全體ヲ消費スル方遙ニ快樂ヲ享クル度增加スルコトアルヘシ是レ即チ交換ノ當事者ハ各自己ノ利益ヲ得ンコトヲ目的トシ而モ利害ノ衝突ナク圓滑ニ取引ノ行ハル所以ナリ

(マーシャル民經濟學第三編第三章參照)

(注意) 人ハ己自ラ交換ニ因リ利益ヲ增加スヘシト信スレハコソ之ヲ爲スモノニシテ何人ヨリ之ヲ觀ルモ交換カ雙方ニ利益ヲ與フヘシト推測ヒラルル場合ニノミ行フモノニアラナルナリ例へハ勞働者カ餘分ノ貨銀ヲ得ンカ爲メニ其雇主ニ對シ過度ノ勞働ヲ供スルカ如キ昔時亞米利加ト亞弗利加トノ間ニ酒精ト奴隸トノ交換アリタルカ如キ局外者ノ眼ヨリ之ヲ觀レハ雙方ニ經濟上ノ損害ヲ與フルモノナリト認メラル場合ニモ猶ホ交換ハ實行セサルナルモノナリ又各交換者ノ享受スル利益增加ノ程度ハ相均シキヲ要セサルナリ例へハ飢餓ニ頻シタル人カ其餘リアル毛皮一枚ヲ與ヘテ綿布ノミニテハ

寒冷ヲ感スル人ヨリ其餘アル米壹斗ヲ得タルカ如キ場合ニ於テハ雙方共ニ交換ニ因リナ利益增加シタリト雖モ前者ノ享受スル快樂增加ノ分量ハ遙ニ後者ノ感スル快樂增加ノ度ニ超過スルモノナリト謂ブコトヲ得ヘシ

現今ノ經濟界ニ於ケル貨財交換ノ位置

昔時人ノ集リテ社會ヲ爲ササル時ニ當リテハ各人其要スル所ノ貨財ヲ生產シテ之ヲ消費シ全然孤立ノ生計ヲ立テタリ此時ニ於テハ貨財ノ生產ト消費トアリテ交換アルコトナシ然ルニ現今ノ產業社會ニ於テハ各人ハ自己ノ要スル諸種ノ貨財ヲ生產セスシテ唯一種ノ貨財ヲ生產スルニ止マムコト多シ而シテ其人ノ生產シタル貨物ハ更ニ第二ノ生產者ノ手ニ渡リ再ヒ之ニ加工シテ第三ノ生產者ノ手ニ歸シ再ヒ之ニ勞力ヲ加ヘテ始メテ消費シ丁ルモノモ亦少カラス而シテ各人ハ互ニ其生産物ヲ交換シテ自己百般ノ需要ヲ充タスコトヲ得ルナリ此人如ク現今ノ社會ニ於テハ交換ト分業ト並ヒ行ハレテ各人相倚リ相助ケテ始メテ經濟上ノ目的ヲ達スルヲ得ルナリ而シテ交換益盛ナレハ分業次第ニ緻密ト爲リ分業愈密ナレハ交換モ亦之ニ從ヒテ頻繁ヲ加ヘ互ニ相助ケテ

益生産業ノ繁榮ヲ來シ各人ノ享受スル快樂ノ分量ヲ増進スルモノナリ其レ故ニ現今ノ產業社會ニ於テハ貨財交換ノ杜絶若クハ妨礙ハ直チニ經濟上ノ危機ヲ來スモニシテ交換ノ增進ハ即テ各人經濟上ノ利益ヲ增加スル所以ナリ

交換ハ次ノ如ク區別スルコトヲ得ヘシ

第一至當事者雙方カ交換ニ因リ直接ノ需要ノ充足ニ宛ツヘキ物貨ヲ得ルト否エドヲ基礎トスルトキ

(一)單純交換若クハ物品交換、交換ニ因リテ當事者雙方カ直接ニ需要ノ充足ニ宛ツヘキ貨物ヲ得タル場合例ヘハ北米印度人ト白人トノ間ニ行ハルル毛皮ト彈丸トノ交換ノ如シ

(二)複雜交易若クハ賣買、交換ニ因リ一方ノ當事者ノ得タルモノハ直接ニ需

要ノ充足ニ充ツヘキモノニアラスシテ更ニ他物ヲ得ンカ爲メニ手段トシ

テ用フヘキ貨物即チ貨幣ナルトキ例ヘハ米貨幣トノ交換ノ如シ

第二至交換ノ各當事者カ自己ノ貨物ヲ其相手方ニ引渡スヘキ時ヲ基礎トスルトキ、過たる人リ其額ハ或半又或全額ヲ當合ニ致シヘヌ

地方債ノ國債ト其趣ヲ異ニスルコト上表示ス所ノ如シ而シテ今ヤ地方債ハ年ヲ追フテ遞増シ停止スル所ヲ知ラス固ヨリ發達ノ初期ニ屬スルヲ以テ未タ此カ弊害著シキヲ見ルコトナク殊ニ地方制度ノ設備日猶ホ淺ク地方財政ノ頗ル幼稚ナル我邦ノ如キニ在リテハ寧ロ多少ノ獎勵ヲ加フルノ要アルカ如キモ東西ヲ通シ地方債全體ノ現時ノ趨勢ヲ以テ將來ヲ付度スレハ之カ研究ヲ試ムコト蓋シ今日ノ急務ナリト謂フヘシ

第二款 地方債增加ノ趨勢

地方債ハ最近五十年間ニ於テ著シテ長足ノ進歩ヲ來セルコトハ前款ニ於テ一言セル所ナリ今多クノ著書ニ於テ例示セル統計及ヒ我邦ニ於タル地方債ノ概況ヲ摘載シテ其增加ノ趨勢ヲ示セハ左ノ如キ

英國土及ヒ威西ノ地方債ハ一千八百七十五年ニ於テハ僅ニ九千二百萬磅ニ過ぎナリシモ一千八百八十年ニハ一億四千四百萬磅ニ上リ一千八百八十八年ニハ一億九千二百萬磅ニ遞増シ平均一箇年八百萬磅ノ割合ヲ以テ增加シタリ蘇

格蘭及ヒ愛蘭土ハ文化發達ノ度比較的低タ都市ノ數少ク且ツ小ナルカ爲リ英蘭土及ヒ威西ニ比シテ遙ニ下レルモ猶ホ四千萬磅以上ニ達セリ一八八九年ニ佛蘭西ニ於テモ第二帝國ノ設立以前ハ諸縣ノ地方債ハ全クナカリシモ那破衛三世即位以降地方債ハ非常ノ速度ヲ以フ増加シ巴里市ヲ除キテ一千八百六十二年ニハ僅ニ一千三百六十萬磅ニ過キサリシモ一千八百六十九年ニハ二千三百萬磅ニ上リ一千八百七十八年ニハ三千三十萬磅ニ遞増シタリ
伊太利地方團體ノ財政ノ如キヘ其富ノ程度ニ比シテ既ニ地方債過多ノ弊害ニ陥レルモノニシテ一千八百八十五年ニハ總額三千五百三十萬磅ニ上リ所在破旋ニ漁セル自治團體販カラス「ブロレンス」「チーブルス」ノ諸市ノ如キハ債權者ト協議ノ結果市債ノ契約條件ヲ變更シ漸ク財政ノ破旋ヲ免ルルモノノ如シ北米合衆國ニ於テハ一千八百四十年代ニ於テ「ミシシッピ」外各州ニ於テ負債ノ強制取消利子ノ引下支拂停止ヲ爲セシコトアルハ前ニ一言セル所ナリ一千八百六十年ニ於テハ各種ノ地方債ヲ合スルモ一億那ヲ超エサリシモ一千八百七十年ニ至リテハ五億一千五百萬弗ニ上リ一千八百八十年ニハ八億二千二百

十萬弗ニ遞增シタリ

我邦ニ於ケル地方債ハ府縣制郡制市制町村制東京市區改正條例水利組合條例黃ニ明治二十三年法律第三號等ニ依ルモノニシテ最近十年間ニ於テ著シキ進歩ヲ見ルニ足レリ今明治二十七年度以降ノ地方債未償還高ヲ示セハ次ノ如シ
明治二十七年度一千六萬二千九百十四圓
明治二十八年度一千二十三萬一千八百十一圓
明治二十九年度一千九十一萬六千七百九十一圓
明治三十年度一千四百十五萬三千四百十二圓
明治三十一年度二千六十一萬二千五十四圓

第三款 地方債增加ノ原由

第一項 緒論

地方債ノ增加ニハ一千八七十年後巴里市ノ普佛戰爭ノ際ニ於ケル破損修理ノ爲メ起債セルカ如キ一千八百四十五年後北米合衆國ノ地方自治團體ノ分權

ノ草創ニ因ル起債ノ如キ時ト處ニ依リ特種ノ原因ニ基クモノナキヲ保セナレ
トモ大體ニ於テ地方債増加ノ原由ハ又同時ニ國債増加ノ原由ト相一致スベキ
ハ言フエタサル所ニシテ是レ本編第一章ニ於テ縦述セル所ナリ
地方債増加ノ原由ニシテ地方債ノ特色トシテ看ルヘキモノハ又肢レテ二者ニ
大別スルコトヲ得ヘシ一ハ地方ニ於ケル支出ノ増加ニシテ一ハ地方ニ於ケル
支出ノ増加ニ對スル地方債ノ必要ナリ予ハ前者ヲ稱シテ地方ニ於ケル起債ノ
必要ト云ヒ後者ヲ稱シテ地方ニ於ケル地方債起債ノ必要ト云フ

地方ニ於ケル債務發生ノ必要トハ其債務ノ國債ナルト地方債ナルトニ論ナク
其募集ニ依ルト借入ニ依ルト間ハス地方ニ於ケル支出遞増ニ伴フ起債ノ必
要ヲ指スモノニシテ再分シテ甲都市ノ膨脹乙社會政策主義ノ二ト爲ス

地方ニ於ケル地方債起債ノ必要トハ地方ニ於ケル起債カ國債ニ依ラスシテ地
方債ニ依ルヘキ所以ヲ指スモノニシテ再分シテ甲 地方分權ノ伸張(中央財政ノ
膨脹乙代議政體ノ組織限地的公債)ノ二ト爲ス

第二項 都市ノ膨脹

較近都市ノ人口ハ非常ナル速度ヲ以テ増殖シ十九世紀ノ弊頭ニ於テ九十六萬
ヲ超エナリシ倫敦市ノ人口ハ四百萬ヲ超過スルニ至リ五十六萬ニ足ラナリシ
巴里市ノ人口ハ三百萬ヲ超過スルニ至リ二萬以上ノ人口ヲ有スル都市四箇所
ニ過キナリシ北米合衆國ハ一千八百八十年ニハ百二箇所ニ増加シ一千八百八
十一年ニハ英國ニテハ三千以上ノ都市ノ人口ハ總人口ノ六割六分強ニ達シ二萬
以上ノ都市ノ人口ハ獨逸ニテハ總人口ノ一割六分合衆國ニテハ一割八分ノ割
合ヲ占ムルニ至レリ此ノ如ク都市ノ人口ノ増加スルハ單ニ人口ノ絕對ニ増加
スルニ原由スルニ止マラスシテ地方人民ヲ都市ニ吸收スルモノナリ換言スレ
ハ小都市ノ發達ヲ中止シテ大都市ノ膨脹ヲ來スモノナリトス
都市ノ膨脹カ二様ノ方面ニ依リテ増加スルカ如ク都市ノ膨脹ニ伴フ都市ノ經
費モ亦二様ノ方面ニ依リテ増加スルモノナリ換言スレハ人口增加ノ比率ニ伴
フ增加ノ外人口ノ增加ニ依リ特種ノ經費ヲ増加スルモノナリ即チ水道下水港

溝道路堤防排水瓦斯電燈、公園、病院、其他恤救衛生ニ關スル設備學校、圖書館、美術館、其他教育ニ關スル設備市塗理葬地、鐵道、軌道等ノ施設ノ重ナルモノハ多ク都市ノ人口カ一定ノ程度以上ニ膨脹スルニ伴ヒテ發生スルモノナリ今一千八百八十年ニ於ケル北米合衆國ノ地方債八億二千二百十萬弗ノ負擔ノ分配ヲ見ルニ左ノ如シ

學事組合	一七,五〇〇,〇〇〇 弗
村債	三一〇,〇〇〇,〇〇〇
人口七千五百人以下ノ都市ノ市債	五五,八〇〇,〇〇〇
郡債	六四,〇〇〇,〇〇〇
人口七千五百人以上ノ都市ノ市債	六四三,八〇〇,〇〇〇
都市ノ市債	六四〇,〇〇〇,〇〇〇

即チ人口七千五百人以上ノ都市ノ市債ハ地方債總額八割以上ヲ占ムルヲ見ルヘシ

尙ホ上述ノ所論ニ對スル實例ヲ示セハ倫敦市ノ市債ハ四十萬磅ヲ超エ大不列

頓ノ地方債總額ノ六分ノ一ニ當リ殆ト蘇格蘭士及ヒ愛蘭士ノ地方債ノ總額ニ相伯仲セリ又巴里市ノ市債ハ九千八百萬磅ヲ超エ地方債總額ノ七割ヲ占ム我邦ニ於テモ明治三十一年度末東京府ノ地方債ハ五百十六萬圓大坂府ノ地方債ハ三百四十七萬餘圓ニシテ二者ヲ合スレハ地方債總額ノ三割五分ヲ占ム此ノ如ク都市ノ膨脹ハ絕對相對ニ著シク經費ノ増加ヲ來スヲ以テ地方ニ於ケル起債ハ延ラ著シク之カ必要ノ度ヲ進ムルニ足レリ

第三項 社會政策主義

瓦斯電燈、水道、鐵道、航道ノ諸事業ハ之ヲ私人ノ經營ニ放任スヘキカ國家又ハ公共團體ノ手裡ニ收ムヘキカハ既ニ學說實際ニ於テ偏ク研究セラル所ニシテ又予輩ハ前ニ官業論ノ下ニ於テ綴述セル所ナリ本節ニ於テハ地方ニ於ケル起債ノ必要大ナルヘカラサル原由ヲ叙述スルニ非シテ何故ニ事實起債ノ必要大ナルヤフ叙述スルヲ要ト爲スヲ以テ其都市ノ事業ト爲スノ良否ハ又茲ニ問フ所ニ非ナルナリ故ニ予ハ社會政策主義ノ興隆ハ新ニ從來私人ノ經營ニ放任ス

ヘキ事業ヲ都市ノ公共團體ノ事業ト爲シ從來私人ノ經營ニ係レル事業ヲ都市ノ公共團體ニ買上ケ爲メニ經常臨時共ニ著シク公共團體ノ財政ノ膨脹ヲ來シ施テ之カ設備買上ニ伴フ臨時巨額ノ支出ヲ要スルコト多キヲ加フルニ至リシコトヲ一言スルニ止ムヘシ。各國ノ實例ニ徴スルモ水道、瓦斯、電話、電燈、鐵道、軌道ノ類ハ何レノ時處ヲ問ハス同時ニ同一ノ都市ニ於テ並立スルコトナシ是レ自然的獨占事業ノ特色ニシテ又公設主義ノ唱道セラル所以ナリ固ヨリ或程度マテハ同一ノ都市ニ於テ同時ニ並立スルコトナキヲ保セナルモ互ニ同一ノ利害關係ノ下ニ於テ競争スルニ非シテ互ニ地域ヲ限リテ其管轄域ノ中ニ分立スルニ過キス競争ハ必スニ者ノ聯合ヲ來スニ非スンハ必ス一方ノ敗滅ヲ來スモノナレハナリ。北米合衆國ニ於テ水道ヲ有スル都會ハ一千四百〇三箇所ニシテ内並立制ヲ執レルモノ僅ニ七箇所ニ過キス。英國ハ一千八百八十四年度ニ於テ地方自治體中半數ハ公設ノ水道ヲ有シ百二十五箇ノ自治體ハ瓦斯事業ヲ營ミ百五十五箇ノ市街鐵道中二十七箇所ハ

地方自治體ニ所屬ス。獨逸ニ於テ水道ハ總テ公設ニ係リ瓦斯事業ハ一千八百八十七年ニ於テ四百八十二箇中二百二十ハ市ノ公設ニ屬セリ。

第四項 地方分權ノ伸張中央財政ノ膨脹

自治制度ノ發達ニ伴ヒ行政上分權ノ歩武ヲ進ムルハ近時歐米列國ニ於ケル大勢ニシテ或ハ地方機關ノ設定若クハ組織ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ノ中央機關ニ對スル關係ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ト中央機關ノ分配ニ依リ漸次地方ノ行政權ノ範圍伸張セラレ延テ地方團體ノ經費ハ著シク遞増セラルニ至リ隨テ國家自體カ之カ財政ノ衡ニ當ルコト事實不能ナルミナラス既ニ自治ヲ認メ分權ノ歩武ヲ進ムル以上ハ之ニ對シテ又或程度マテ財務行政上ノ自治ヲ認ムルコトナクノハ地方自治其モノノ完全ナル發達ヲ期シ難キハ言ヲ俟タヌルハ既ニ地方稅ノ下ニ於テ叙述セル所ノ如シ。

近時國家財政ノ膨脹ハ益々地方財政ニ對スル國庫ノ負擔ヲ減セントスルニ際シ

財政上ノ地方分權ヲ認ムルハ已ムヲ得サル條件ニシテ又自治ノ圓滿ナル發達ヲ來ス爲メ必要ナルコトハ上述スル所ノ如シ是レ各國共ニ公共團體ニ對シ起債ノ權限ヲ認メタル理由ニシテ府縣制第一七條、郡制第九五條、市制第一〇六條町村制第一〇六條參照近時其權限ハ比較的伸張セラレタル傾向ナシト爲サルナリ

第五項 代議政體ノ組織限地的公債

地方財政ニ對シ國庫ノ補助ヲ與フルコト能ハサルハ前目ニ叙述セシカ如ク單ニ財政ノ膨脹ノミニ止マラス又其公債ノ性質カ限地的ナルニ原由スルコト大ナリトス殊ニ地方自治制ト相關聯シテ發達スル代議政體ノ組織ニ於テハ國庫カ全國均一ノ割合ヲ以テ地方財政ヲ補助スルハ敢フ難シト爲サルモ特ニ一地方ノ爲メニ補助ヲ與ヘントスルハ地方的感情ノ結果容易ニ奏效ヲ期シ難キノミナラス一度國庫補助ノ慣例ヲ作ルトキハ所在各地方ノ議員ノ朋黨比周ト爲リ歲計上冗費ヲ増加シ爲メニ來スヘキ害毒ノ大ナルハ又敢テ豫想スルニ離カ

ラナルヘキナリ

然レトモ此問題ハ事實トシテ國庫經濟ト地方經濟トノ畛域ヲ立ツルニ困難ナル場合渺シト爲サス極言スレハ苟モ國家又ハ公共團體ノ行動ハ少トモ法理上形式上公共的ノ性質ヲ有シ直接間接ニ國家全般ニ對シ利害關係ヲ有セサルハナシ治水築港ノ工事ノ如キ衛生交通ノ事業ノ如キ其利害ハ直接ニ數地方ニ亘ルモノアリ或ハ電燈瓦斯ノ事業ノ如キ其直接ノ利害關係ハ一都市ニ僻在スルコトアリ皆程度ノ論ニシテ經費ノ種類ニ依リ直ナニ斷定シ難キモ其事業ノ大小ト其地方及ヒ中央財政ノ狀況ニ依リ國庫ヨリ一部ノ補助ヲ仰クコトアルヘキハ言ヲ俟タナル所ナリ

第二節 地方債ノ起債及ヒ償還

第一款 地方債ノ起債

地方債ノ起債ハ借入ヲ原則トシ募集ヲ例外トスルコト正ニ國債ト相反セリ其原由多大アルヘキモ要スルニ左ノ三點ニ歸著スヘシ

一 地方團體ノ信用ハ政府ノ信用ニ比シテ比較的薄弱ナルコト

二 實質ニ於テハ限地發行ト爲ルヲ以テ他ノ地方ニ在ル者ハ應募償還利子ノ受取等總アノ手續ニ不便ナルコト

三 發行額少キカ故ニ融通ノ範圍狹ク授受實質ノ便利少キコト

現ニ我國ノ地方債ニ徵スルモ明治三十一年度ニ於テ三府四十一縣ノ地方債中ハ多ク普通ノ借入金ニ屬セリ
上述セル地方債ノ不便ヲ避タル方法トシテ政府自ラ代リテ公債ノ募集ヲ爲スコトアリ英國ノ地方法務院(Local Government Board)ハ其一例ニシテ同院ハ一方ニハ地方自治體ノ公債發行ニ對シ其資金ノ用途募集償還ノ手續ニ付キ認可權ヲ留保スルト共ニ一方ニハ國會ニ稟議シテ地方自治體ニ參與スルカ爲メ一定ノ金額マテ自ラ公債ヲ發行スルノ協贊ヲ得ルノ制アノヲ以テ危險ノ負擔ナクシテ自ラ公債ヲ發行シテハ地方財政ノ負擔ヲ輕減シハ中央政府監督ノ實ヲ明カニスルノ便アリトス

地方債借入ノ方法ニハ私人ヨリ普通ノ方法ニ依リテ借入ルルコトアリ然レトモ國庫カ補助ノ意味ヲ以テ貸主ト爲リ又ハ借入ノ便宜ヲ與フルコト又妙シト爲サス或ハ國庫ハ一定ノ事業ノ爲メニ特ニ金庫ヲ設置シ地方自治體ヲシテ其事業ニ要スル資金ヲ該金庫ヨリ借用セシムル制アリ
佛蘭西ハ一千八百六十八年道路修築ノ爲メ金庫ヲ設置シ一千八百七十八年新學制ノ施行ニ依リ學校建築ノ爲メ金庫ヲ設立シ共ニ公債ノ利子ヨリ低利ヲ以テシ供給資金缺乏ノトキハ爲メニ自ラ公債ヲ發行シテ此カ供給ニ充ツルヲ例ト爲シタリ

或ハ利殖スヘキ基金ヲ有スル場合ニ便宜其一方法トシテ地方自治體ニ之ヲ貸付タルコトアリ

獨逸ニ於テハ普佛戰爭ニ由リテ得タル資金ノ一部ヲ以テ廢兵給助基金ト爲シ該基金ハ便宜利殖ノ爲メ自治體ニ貸與セリ
或ハ土地抵當銀行農業銀行等ヲ設立又ハ監督シ之ニ多少ノ特權即チ主トシテ證券ノ發行權ヲ付與シテ地方自治體ニ長期ノ貸附ヲ爲サシメ事實銀行ヲシテ

地方自治體ニ代リテ公債ノ發行ヲ爲サシムルコトアリ其例一ニシテ止マラス」
歐洲大陸ニ於テハ較近此種類ノ銀行盛ニ勃興シ地方團體ノ依リテ利便ヲ享
クルモノ亦尠シト爲サス我邦ニ於テモ近年勸業銀行、興業銀行、拓殖銀行等ノ
設立アリ殊ニ農工銀行ハ明治三十一年ノ開始ニ係リ日尙ホ淺シト雖モ同年
末ニハ設立ノ數四十一箇所ニ上リ貸付ニハ三十年以内ノ年賦償還貸付ノ制
ト五年以内ノ定期償還貸附ノ二種ヲ設ケ年賦償還貸附金總額三百六十八萬
餘圓中公共團體ニ貸附ケシ分二十三萬餘圓定期償還貸附金總額五十三萬餘
圓中公共團體ニ貸附ケシ分十一萬ニ上レリ

第二款 地方債ノ償還

地方債ハ經濟上ノ平常公債ニ限ラレ非常公債又ハ財政上ノ平常公債ハ地方債
トシテ起債スヘキモノニ非サルコトハ上述セル理論ニ微スルモ自ラ明カニシ
テ又事實ノ立證スル所ナリ既ニ經濟上ノ平常公債ニシテ而モ國債ニ比シテ比
較的少額ナルヘキモノタル以上ハ國債ノ如キ資金ノ需要急促ニシテ且フ巨額

ナルヘキノ理ナク延テ地方團體ハ豫メ其起業ノ設備ニ應シテ之カ起債償還ニ
關スル手續ヲ定ムルコトヲ得ヘタ又此カ決定ハ地方團體ノ信用扶持ノ爲メ必
要ナル條件タリ

地方債ハ猶ホ社債ノ如シ地方團體ノ信用ヲ以テ地方債ヲ起ス必スヤ其起債ト
共ニ增稅財產收入起業利益等ニ依ル償還ノ途ヲ定メ此カ整理ヲ急ニセシンハ
非ス是レ地方團體ノ生命及ヒ產業上ノ變遷ハ國家ニ比シテ短期ニシテ且フ常
ナラサルノミナラス地方團體ノ財源ハ國家ニ比シテ著シク簡單ニ且フ狹少ナ
レハナリ故ニ地方債ニハ無期ノ公債ハ理論上認ムヘカラサルノミナラス事實
亦起債ノ能力ヲ有スルコトナシ管ニ無期ノ公債ノミナラス有期ノ公債ト雖モ
其定額支拂公債ナルト隨時支拂公債ナルトヲ間ハス短キニ失シテ一部ノ地方
人民ニ對シ著シク負擔ヲ増加スルノ愚ヲ學フヘカラサルト共ニ又長キニ失シ
テ負擔ヲ將來ニ貽シ團體自體ノ起債力ヲ滅失セシムヘカラス固ヨリ程度ノ論
ニシテ一律ヲ以テ斷定シ難キモ各國皆大體ニ於テ此償還期間ノ最長限度ヲ定
メタルモノ少シ英國ノ地方債條例ニ於テハ二十箇年ヲ極度トシ佛國ニ於テハ

十二箇年トシ我邦ノ府縣制郡制市町村制ハ共ニ据置期限ヲ三箇年以内トシ償還期間ハ三十箇年ヲ最長限度ト爲セリ
上述ノ如ク地方債ノ性質ハ國債ト其趣ヲ異ニスルコト多キヲ以テ所謂償還基金法ノ如キモ地方債ニ於テハ其弊害ヲ見ルコト著シク妙キノミナラス却テ地方團體ノ信用ヲ維持シ償還ノ確實ヲ保障スル爲メ多少ノ利便ト爲ス所勘シト爲テス是レ比較的信用薄弱ナル團體カ少額且ツ少數ニシテ短期ナル債務ヲ負ヘル場合ニ於ケル自然ノ數ナリトス隨テ公債ノ管理主トシテ借換ノ如キハ事實ニ於テ行ハルコトナク又理論上行ハルヘキモノニ非ス是レ平常無事ノ際ニ起債セラレタル公債カ短期間にニ於テ著シク利子ノ高低ヲ見ルコト有ルヘカラナレハナリ勿論地方團體ハ其起債ノ利子國債ノ利子ニ比シテ多少高カルヘキモ我邦ノ府縣債ノ利率ハ五分乃至八分ニシテ市町村債ノ利率ハ四分乃至一割二分ナリ是レ地方團體ノ信用ノ厚薄ニ基因スルモノニシテ時ノ經過ニ依リテ左右セラルモノニ非ス隨テ若シ單純ナル機關カ地方債ニ對シ複雜ナル借換ヲ行ヒ之カ成效ヲ告クルコトアレハ是レ該地方債ハ著シク拙劣ナル過誤ニ

因リテ不當ニ不利益ナル條件ヲ以テ發行セラレシコトヲ反證スルモノニシテ蓋シ此ノ如キ失態ハ事實トシテ未タ發生セルコト非ナルヘシ

第三節 地方債ノ監督

第一款 地方債監督ノ必要

地方債ノ増加ト之ニ伴フ濫用ノ弊害ハ本章第一節第一款ニ於テ既ニ其大要ヲ叙述シタリ我邦ノ如キハ地方制度ノ幼稚ナル未タ濫用ノ弊害ヲ見ルニ至ラサルモ歐米各國ニ於テハ伊太利ノ都市ノ如キ既ニ負擔重キニ失シ所在債権者ト協定シテ契約ノ條件ヲ變更シ以テ財政ノ破綻ヲ防遏スルモノ多ク殊ニ北米合衆國ニ至リテハ地方債濫用ノ弊害著シク今アダムス氏ノ示ス所ニ依レハ一千八百八十五年前後ノ統計ニ依レハ紐育費盾(ビーポルク、シンシナチー)各市ハ市民一人ノ市債分頭額九十弗ヲ超エ「ニユート、ジエルシー」「エリザベス」諸市ハ人口二萬八千ニ過キナルモ分頭額ハ百九十五弗ニ上リ「バース市」ノ如キハ人口八千ノ小市ニシテ二百十六弗以上ノ分頭額ヲ負擔シタリ此ノ如ク地方債ノ濫用著シ

キヲ加フルニ至リテハ勢ヒ居民ノ移住ヲ促シ資本ノ流出ヲ來シ所在地方ノ經濟上ノ發達ヲ阻礙スルコトニシテ足ラス而シテ此等弊害ノ原由ヲ見ルニ主トシテ地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ニ非サレハ起業家及ヒ地方機關ノ私曲ニ基因セサルコト稀ナリ

第一 地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ハ一千八百三十年ヨリ一千八百六年ニ至ル合衆國各州ノ起業熱勃興ノ時代ニ伴ヒシモノニシテ當時各州到ル所或ハ銀行ヲ設立シ或ハ運河鐵道築港ノ事業ニ從事シ而モ無經驗者流ノ無責任ナル企業熱ハ殆ト其大部ヲ舉ケテ失敗ニ了ラシメ唯巨額ノ州債ヲ貽シテ所在人民キ苛重ノ負擔ヲ荷ハシムルニ至レリ彼ノ「ミシシビ」其他各州ニ於ケル公債ノ取消利子ノ強制引下支拂停止ノ不法行為ヲ取テセシハ又此際ニシテ爾後各州ノ憲法ニシテ土木事業ノ爲メ州債ヲ起スコトヲ禁止セル明文ヲ掲ケタルモノ尠シト爲サス

第二 企業家及ヒ地方機關ノ私曲ハ鐵道事業ニ付テ最モ多ク行ハレタリ蓋シ同國ノ地方團體ハ私設鐵道會社ニ補助金ヲ與フルコトヲ得ルヲ以テ會社ハ線

路ノ設定ニ際シ沿道ノ地方團體ヲ競爭セシメテ多額ノ補助金ヲ支出セシムルコトニ努メ當時鐵道熱ハ昂騰セル際地方團體ニシテ補助金支出ノ爲メ地方債ヲ起シ之カ負擔ニ苦シマサルモノ殆ト稀ナリシモノノ如シ其他各種ノ事業經營ニ際シ公益ヲ名トシテ地方機關ト結托シテ不當ノ補助金ヲ支出セシメ或ハ土地所有權ノ轉賣工事ノ請負其他各種ノ方法ニ於テ不正ノ金額ヲ支出セシメ地方人民ノ負擔ヲ大ナラシメンコト専シト爲サス此等ノ徒黨「リング」Ringト稱セラレ其罪惡ノ大ナルハ既ニ世人ノ周知スル所ナリ

第二款 地方債監督ノ方法

地方債ノ監督ハ又其寛嚴宜キヲ得スンハ非ス是レ地方稅ノ監督ノ下ニ於テセル所ニシテ又茲ニ叙述スルノ要ヲ見ルコトナキヲ以テ唯地方債ノ監督ハ地方稅ノ監督ニ比シ其方法嚴密ニ亘ルモ比較的弊害少キモノナルコトヲ一言スルニ止メ直ニ歐米各國ノ立法例ニ微シ其監督方法ニ付キ叙述スル所アルヘシ」歐米各國ニ於テハ何レノ國ニ通スルモ監督官廳ノ認可ヲ要件トセサルモノ少

シ昔國ニ於テハ縣參事會之ヲ監督シ英國ニ於テハ地方政府院之ヲ監督ス我邦ニ於テハ内務大臣及ヒ大蔵大臣之ヲ監督ス府縣制第一三四條郡制第一一五條市制第一一二二條町村制第一二六條參照)

監督官廳ノ認可ヲ條件トスル外尙少法規ヲ以テ地方債ノ發行ニ付キ各國皆多少ノ制限ヲ設ケサルモノナシ今其制限ノ重ナルモノヲ列舉スレハ次ノ如シ

第一 公債募集ノ議案ノ議決方法ニ對スル制限

或ハ三分ノ二以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ或ハ一般選舉人ニ投票セシメテ四分ノ三以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ(テンチアシ州或ハ同數ノ多額納稅者ヲ招集シテ等シク之カ議決ニ加ハラシムルモノアリ(佛國一千八百七十年縣制第四二條)

第二 起債ノ目的ニ對スル制限

或ハ私設會社ニ補助金ヲ與ヘ若クハ利子ノ補給ヲ爲シ若クハ其株主ト爲ルコトヲ禁スルモノアリ或ハ鐵道運河其他ノ營利的事業ノ企業ヲ禁スルモノアリ(合衆國或ハ公債ノ償還天災禍等ニ基ク必要ナル支出團體永久ノ利益

該著作者及ヒ其相續人ノ翻譯權ハ十年ナリトス而ダク其保護ノ程度ハ著作ト同一ナリトス新聞雑誌上ニ記載シタル著作物ハ著作者ニ於テ之ヲ禁セサル限テハ複寫又ハ翻譯刻ヲ妨ケサルモノトス政事上ノ論說及ヒ時事ニ關スル著作物ハ著作者ノ禁止シタル場合ト雖モ翻譯又ハ翻刻ヲ許ス抜萃ハ同盟國ノ國法又ハ特別條約ニ依リテ之ヲ定ム無名又ハ匿名ノ著作物ニ付テハ發行人ヲ著作者ノ相續人ト看做ス偽作物ノ沒收ハ保護ヲ爲ス國ノ法律ニ依ル又(ベルン)條約ハ各國ニ於ケル警察上ノ處分ヲ妨ケサルモノトス又著作者ノ權利ヲ擴張スル場合又ハ本條約ニ抵觸セサル場合ニ於テハ特別條約ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス而シテ(ベルン)條約ハ條約當事國ノ一致アルニアラナレハ變更ヲ爲スゴトヲ得ナルモノトス

著作権ノ準據法ニ關スル從來ノ學說ハ主トシテ主權説ニ依據シタルモノナレトモ今日ニ於テハ此說ヲ唱フル者殆ト之ナキニ至レリ而シテ今日ニ於テハ屬人說ヲ唱フル者尠カラス即チ著作者ノ本國法ニ依リテ著作権ノ準據法ヲ定メシトスルモノナリ然レトモ元來著作権ノ性質タルヤ決シテ一定オ國體歴史社

會ノ狀態又ハ氣候等ニ關係ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ右ノ準據法ニ依ベキモノニアラス是ニ於テ著作権ヲ始メテ發行シタル國ノ法律ヲ以テ準據法ト爲スヘントノ說漸ク多キヲ加フルニ至リ殊ニ「ベルン條約」ノ如キハ此說ヲ採用セリ蓋シ著作権ハ著作物ヲ發行シタル地ニ於テ發生シタルモノナルカ故ニ此地カ著作権其モノニ付キ最モ密著ナル關係ヲ有スルヤ明白ナリトス學者或ハ此地ヲ稱シテ本國法ナリト曰フ者アリ「ベルン條約」ノ如キモ亦此名稱ヲ用ヒタリ此名稱ノ當否ハ姑ク措キ之ヲ以テ著作権ノ範圍效力保護期間等ノ問題ヲ決定セシムルハ其當ヲ得タルモノノト信ス我著作権法ハ「ベルン條約」ト其精神ヲ同シウスルモノニシテ殊ニ其第二十八條ハ規定シテ曰ク「外國人ノ著作権ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作権保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有スト故ニ我著作権法ニ依レハ我國ニ於テ始メテ著作物ヲ發行シタル外國人ノミナラス外國ニ於テ著作物ヲ發行シタル者モ亦我國ニ於テ著作権ノ保護ヲ受クヘシ又我著作権法ニ依リテ我國ニ於テ發行セラレタ

ル著作物ハ外國ニ於テ亦其國人民ノ著作物ト同一ニ保護セラルモノトス要スルニ我著作権法其他近來「ベルン條約」ニ依據シタル法律ハ何レモ平等主義ヲ採用セリ蓋シ著作権ヲ以テ一權ノ私権ト看做シタル結果ナリトス
僞作ニ對スル制裁ハ我著作権法ニ依ルモ民事的ノモノトノ二アリ其他ノ國ニ於テモ二様ノ制裁ヲ認ムル例頗ル多シ蓋シ一種ノ制裁ノミヲ以テ十分著作権保護ノ目的ヲ達シ能ハストノ思想ヨリ起シタル結果ナリトス而シテ如何ナルモノヲ以テ僞作ト視ルヘキヤハ多クハ法律上之カ定義ヲ與ヘスシテ學者ノ見解ニ一任セリ我著作権法ノ如キ亦然リ是ニ於テ如何ナル行為ヲ僞作ト認ムヘキヤ否ヤノ問題ハ國際私法上何レノ法律ニ依リテ管轄セラルルヤ若シ僞作ハ法例ニ所謂不法行為ト同一ノ意味ナリトセハ一定ノ行爲ヲ以テ僞作ト認ムルヤ否ヤハ僞作ヲ爲シタル國ノ法律トニ依リ共ニ僞作ト認メタル場合はアラサレハ制裁ヲ生スルコトナキモノトス我著作権法ニ於テハ第二十九條ニ規定シテ曰ク「著作権ヲ侵害シタル者ハ僞作者トシテ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規定ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損

害ヲ賠償スル責ニ任ヌト然ルニ我民法ニ於テハ如何ナル行爲カ不法ナルヤ否
ヤヲ定メナルカ故ニ我著作権法ノ所謂爲作ノ内容ハ學說ニ一任せラレタルモ
ノト看ルヘキモノトス又若シ我法律ニ照シ爲作ト認メタル行爲ニシテ爲作ト
爲シタル國ノ法律ニ照シ爲作ト爲ラナルトキハ我國法ニ照シ處分スルコトヲ
得ルヤ予フ以テ之ヲ觀ルニ此種ノ涉外的問題ハ著作権法ハ法例ニ委任シタルモノト解釋セラレサルヘカラ
ラス果シテ然ラヘ右ノ例ハ我國ニ於テ制裁ヲ加フルヲ得ス尙ホ著作権法第三
十一條ヲ見ルニ左ノ規定アリ曰ク帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ爲作
物ヲ輸入スル者ハ爲作者ト看做スト是ニ於テ左ノ問題ヲ生セリ即チ我法律上
爲作ト認ムヘキ著作物ヲ外國ニ於テ發行シ而シテ發行地タル外國法カ之ヲ爲
作ト認メタル場合ニ此爲作物ヲ爲作者カ發賣頒布目的ヲ以テ我國ニ輸入
シタル場合ニ輸入ノ行爲ハ之ヲ爲作トシテ著作権法ノ制裁ヲ受ケサルヘカラ
ナレトモ尙ホ外國ニ於ケル爲作ハ不法行爲トシテ我法例ニ於テ賠償ノ判決ヲ
爲スコトヲ得ルヤ是ナリ外國ノ學說ハ一事ハ再理ヒストノ原則ヲ適用セント

第二款 工業所有權

スル者頗ル多シ然レトモ我國際私法タル法例ト著作権法トノ二面ヨリ觀察ス
ルトキハ外國ニ於テ發行シタル所爲ト輸入ノ所爲トハ全ク別物ナルカ故ニ少
クトモ民事上ニ一事ハ再理セストノ原則ヲ適用スルコト能ハスト信ス
ラレタリ

工業所有權ノ性質ニ付テハ從來識者カ其必要ヲ唱ヘタレトモ各國之ヲ容ルル
ニ及ハサリシカ千八百七十三年維納萬國博覽會ニ際シ始メテ同地ニ於テ私ノ
萬國會議ヲ開キ其結果千八百七十八年佛國ニ於テ萬國博覽會ヲ開キタルニ方
リ右私ノ萬國會議ノ會員ヨリ佛國政府ニ萬國會議ヲ開クヘキコトヲ請求シ佛
國政府ハ此請求ヲ容レテ千八百八年始メテ第一回ノ萬國會議ヲ開クコト數
回ニシテ遂ニ一千八百八十三年萬國工業所有權保護條約ヲ締結スルニ至リ翌年

批準交換ヲ了レリ現行條約即チ是ナリ
左ニ右條約ノ要領ヲ説明スヘシ凡テ本條約ノ當事國ニ於テ工業所有權ノ主體ト爲ル者ハ同盟國ノ十二於テ製造所商店又ハ住所ヲ有スル人ニシテ國籍ハ何等ノ關係ヲ有セサルモノトス故ニ國際無籍人ハ勿論同盟國以外ノ人民ト雖モ本條約ノ當事國ニ於テ工業所有權ノ主體トシテ認メラルコトヲ得ヘシ然レトモ工業所有權ノ主體ト爲ルカ爲ミニ内國法ニ依リテ定メタル條件及ヒ方式ヲ履行スルコトヲ要ス

工業所有權ノ客體ハ特許、意匠、商標及ヒ商號ナリトス若シ同盟國ノ一ニ於テ此等ノ客體ヲ登録シタルトキハ他ノ同盟國ニ於テ客體ノ種類ニ依リ一定ノ期間内登録優先權ヲ有ス

特許證主ハ特許ヲ付與セラレタル以外ノ同盟國ニ於テ製造シタル特許品ヲ輸入スルモ特許ノ效力ヲ妨ケス然レトモ特許證主ハ特許ヲ得タル國ニ於テ特許ヲ實施スル義務アリ
商標ノ權利者カ本國ニ於テ登録シタル商標ハ他國ニ於テモ登録スルコトヲ得

且フ他國ニ於ケル商標ト同一ノ保護ヲ受クルコトヲ得而シテ條約ニ所謂本國トハ商標ノ權利者カ本店ヲ有スル國ヲ謂フモノニシテ若シ本店ヲ有セオガトキハ其國籍ヲ有スル國ヲ本國ト看做スモノナリ而シテ商標カ他國ニ於テ保護ヲ受クルカ爲ミニハ其國ノ道德又ハ公ノ秩序ニ反セサルコトヲ要ス
商號ハ登録ヲ要セシムノ同盟國ニ於テ保護セラル
同盟國ノ保護ニ係ル商標又ハ商號ヲ不正ニ使用セル物品ヲ同盟國ノ一ニ輸入スルトキハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ沒收ス製造者ヲ隠蔽セル物品モ亦然リ
萬國博覽會ニ陳列スヘキ物品ハ同盟國ニ於テ特ニ之ヲ保護スル義務アリ又同盟國ハ特許意匠及ヒ商標人中央登録ヲ爲ス義務アリ
右ノ事項ヲ管理スル國際中央局ヲ瑞西ニ設ケ其費用ハ同盟國ニ於テヲ負擔ス又此事項ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ同盟國ハ特別條約ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス
次ニ特許ニ付キ各國ノ立法例ヲ按スルニ之ヲ分ナラ三種ト爲スセトヲ得ヘシ

第一種ハ特許ノ制度ヲ認メタル機シテ第二種ハ最長期ニ從ヒ特許ノ保護ヲ爲スモノナリ而シテ第三種ハ最短期ニ從ヒ特許ノ保護ヲ爲スモノナリ第一種ノ制度ハ歐洲以外ノ諸國ニ於テ多ク採用スル主義ナリ又和蘭ノ如キハ近來特許法ヲ廢止シ其結果同國ニ於テハ外國人ハ勿論内國人ト雖モ外國人ノ發明ヲ適用スル者頗ル多シト云フ蓋シ同國カ特許法ヲ廢止シタル理由ハ同國衰頽ノ結果近來發明ヲ見ナルニ至ソシニ依ルモノナリ第二種ノ制度ハ白耳義ニ於テ採用スル所ニシテ第三種ノ制度ハ現今其例頗ル多シ

特許ヲ與フル方法ニ三種アリ第一ヲ假ニ放任主義ト名ク此主義ヲ採用スル國ニ於テハ特許ノ請願ニ對シ何等ノ審査ヲ爲スコトナクシテ特許ヲ許ス故ニ往往真正ノ特許證主カ其權利ヲ侵害セラルコトアリ此場合ニハ真正ノ特許證主ハ法廷ニ訴ヘテ其權利ヲ回復スルコトヲ得レトモ特許局ニ對シテ後ノ特許ヲ取消スコトヲ請求スル能ハス要スルニ己ノ權利ヲ認タル判決ニ依リテ後ノ特許ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ而シテ若シ特許局ニ於テ其請求ヲ理由アリトスルトキハ後ノ特許ヲ取消スゴトヲ要ス此場合ニハ其取消ハ既

往ニ效力ヲ及ホスモノトス此主義ヲ採用スル國ハ澳太利、白耳義、西班牙、露西亞等トス第二ハ假ニ審査主義ト名ク此主義ニ依レハ特許ノ出願アルトキ特許局ハ其請願カ正當ナルヤ否ヤ即チ最先ノ發明ナルヤ否ヤヲ審査シ之ヲ正當ト認メタルトキハ始メテ特許ヲ與フルモノトス我特許法ハ此主義ヲ採用シタルモノナリ第三ノ主義ハ假ニ公告主義ト名ク此主義ニ依レハ特許ノ請願ニ對シ審査ヲ爲スノミナラス之ヲ許ストキハ必ス公告ヲ爲スモノニシテ英吉利及ヒ其領地ニ行ハルモノナリ以上三主義ヲ比較スルニ放任主義ハ権利者ヲ保護スル途ヲ盡シタルモノニアラス唯政府ノ手數ヲ省クノ利益アルノミ公告主義ハ最モ能ク権利者ノ利益ヲ保護スルモノナレトモ其手數煩雜ナル處アリ故ニ審査主義ハ其一方ニ偏セナルモノト謂フヘシ我特許法ハ外國ノ法律ニ比シ優リタル點少クトモ二アリ即チ特許ノ主義ニ付キ最短期主義ヲ採用セナルコト及ヒ審査主義ヲ採用シタル點是ナリ工業所有權約並ニ多クノ國ニ於テ認ムル最短期主義ハ恐クハ工業所有權ヲ以テ特權ナリトスル觀念ヨリ出テタルモノナルベシト雖モ内外人平等主義ニ抵觸スルモノナリ例ヘハ和蘭ノ如キ特許法

ナキ國ノ人民カ最短期主義ヲ採ル國ニ於テ特許ノ保護ヲ受ケントスルを得ハカラナル結果ヲ生スレハナリ又内國人カ外國ニ於テ特許ヲ受ケ更ニ内國ニ來ラテ特許ヲ受タル場合ニ於テハ他ノ内國人ニ比シ劣等ノ地位ニ立フコトアベヘシ此主義ハ今日北米合衆國・加奈太・巴西・伊太利・埃太利・露西亞等ニ於テ採用スル所ナリ之ニ反シテ最長期主義ハ二三ノ國ニ於テ之ヲ採用スルノミ此主義モ亦内外人平等主義ニ抵觸スルモノナリ我特許法第十四條ニ曰ク「工業所有權保護同盟條約ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者七箇月以内ニ同一發明ニ付キ特許ヲ出願シタルトキハ其出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有」スト

特許法ノ問題ニシテ涉外的ナル場合ニ於テハ特別法例ヘハ特許法ニ於テ之要定メサル範圍ニ於テ國際私法ノ原則ニ依ルベキコトハ特許權カ私權ナル性質ヨリ生スル結果ナリトス例ヘハ特許權ノ讓渡・相續等ノ問題ハ相續若クハ物權ノ讓渡ニ關スル國際私法上ノ原則(我國ニ於テハ法例ニ依リテ決定セラルベキモノトス特許權侵害ノ行爲モ亦不法行爲トシテ國際私法上ノ原則ニ依ルベキ)

モノトス

次ハ製造標ニ付テ説明スヘシ製造標ノ保護ハ今日一般ニ行ハレサル所ニシテ工業所有權保護條約ニ於テ之ノ規定セス我國ニ於テハ商標法ニ依リテ商標ヲ保護スレトモ製造標ニ付テハ何等ノ規定ナキカ如シ蓋シ商標ハ單ニ商品ヲ表彰スル爲メ用フルモノニシテ意匠モ亦工業上ノ物品ニ應用スベキ無形ノ考案ノミナルカ故ニ此意匠ヲ應用スル技術ニ至リテハ同一ニ保護スル必要アルニ拘ラス之ヲ保護セザル例多キハ解スヘカラス工業若クハ美術ノ發達スル國ニ於テハ意匠家ト製造家トハ全ク異ナルモノニシテ製造標保護ノ必要ヲ見ル尤モ工業若クハ美術ノ發達セサル國ニ於テ其必要ヲ見スト雖モ工業所有權保護條約中此問題ヲ看過シタルハ是レ亦解スヘカラス而シテ製造標保護ノ法律カ將來各國ニ於テ制定セラル場合ニハ忽チ國際私法上ノ問題ヲ惹起スベキト雖モ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ此製造標モ亦所謂工業所有權ト同一ニ看做スヘキモノナリト信ス

六ニ意匠ニ付キ説明スヘシ

何ヲカ意匠ト謂フヤ殊ニ意匠ト美術トノ區別ニ付ヲハ頗ル困難ナル問題ニシテ未タ明確ナル説明ヲ爲シタルモノアルヲ見ス或ハ凸凹ノ表彰セラレタル形ヲ稱シテ美術ト謂ヒ平面ニ表彰セラレタル形ヲ意匠ト謂フト解スル者アレトモ是レ未タ完全ナル説明ニアラス予ヲ以テ之ヲ觀ルニ意匠ハ他物ニ轉用スルコトヲ得ルモノナレトニ美術ハ之ニ反シテ他物ニ轉用セラレサルモノナリ意匠ノ國際的保護ニ付テハ工業所有權保護條約ニ於テ大體ノ規定アリ隨テ此條約ニ加入シタル國ハ其立法權ヲ羈束セラルルヤ勿論ニシテ我意匠法ノ如キ此條約ヲ基礎トシテ制定セラレタルモノナリ同法第一條ニ於テハ意匠ノ何モノナルヤヲ説明セント試ミタリ此規定ハ諸外國ノ法律ト意匠ノ規定アリ異ニスルモノナルカ故ニ困難ナル問題ヲ生スヘシ
我意匠法ハ平等主義ヲ採用シタルモノニシテ且ツ最短期主義ヲ採用セサル點ニ於テ優等ノ立法例ニ屬ス外國人カ外國ニ於テ意匠登録ヲ出願シタルトキハ四箇月以内ニ我國ニ於テ登録優先權ヲ享有スヘシ意匠法第一〇條意匠専用權ノ相變讓渡侵害等凡ソ國際私法上ノ問題ニシテ我意匠法ニ依リ決定セラレサ

ルモノハ總テ法例ノ規定ニ依ル本國法ニ就キモ此法ナモハチガヘテ莫ニ斯次ニ商標ニ付キ説明スヘシ
本國法ニ就キモ此法ナモハチガヘテ莫ニ斯次ニ商標モ亦工業所有權保護條約ニ依リテ規定セラレタルコトハ前ニ述ヘタル如意而シテ我商標法ハ商標ニ付キ最短期主義ヲ採用シタルコトハ最モ注意スヘキ點ナリトス同法第三條ニ曰ク商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登録ノ日ヨリ起算ス外國ノ登錄商標ニシテ帝國ニ於テ登錄ヲ受ケタルモノノ專用年限ハ原登錄ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超ユルコトヲ得スト而シテ商標法ニ規定セサル國際私法上ノ問題ハ我國際私法ニ依リテ決定セラルモノトス
最後ニ商號ニ付テ述フヘシ
本國法ニ就キモ此法ナモハチガヘテ莫ニ斯次ニ商號ノ保護ハ國際的ナルコトニ付テハ從來學者カ往往唱合タル所ナリシカ漸ク工業所有權保護條約ニ依リテ實行セラルルニ至レサ
之ヲ規定シタリ元來商號ハ商人ノ身分ニ附著スルモノナルカ故ニ商號ニ關スル國際私法上ノ問題ハ同時ニ商人ノ權利ノ問題ナリトス而シテ商人ノ權利ニ關スル問題ハ商事ノ部ニ於テ説明スヘシ

第四章 親族

第一節 婚姻豫約

婚姻豫約ハ之ヲ認ムル國アリ又ハ我民法ノ如ク之ヲ認メサルモノアリ其他之ヲ認ムル國ノ法律中ニ於テモ各其規定ヲ異ニスルカ故ニ國際私法上ノ問題ヲ惹起スヘキヤ固ヨリ其所ナリトス是ニ於テカ或ハ債權ノ原因タル契約ト同一ノ準據法ニ依ラシメントスル說アリ然レトモ婚姻ノ豫約ハ身分ノ設定若クハ變更ノ目的トスルモノナルカ故ニ所謂財產的契約ト同一ニ觀ルコト能ハス而シテ人ノ身分ハ本國法ニ依リテ管轄セラルコトハ近世學說ノ認ムル所ニシテ又我法例ノ採用スル所ナリ然レトモ男子ノ本國法ニ依ルヘキヤ又ハ女子ノ本國法ニ依ルヘキヤ或ハ將來夫タルヘキ者ノ本國法ニ依ルヘシトノ說アレトモ婚姻豫約ハ未タ服從ノ關係フ生セサル當事者間ニ成立スルモノナルカ故ニ何カ故ニ將來夫タルヘキ者ノ本國法ニ優先ノ地位ヲ與フルヤ其理由ヲ知ルニ苦ム故ニ婚姻豫約ハ當事者ノ各本國法ニ依リテ決定セラルヘキモノナリト信

スル事ハ當初本國法ニ於テ夫婦關係ヲ定めテ良文ハ全文を同様ハ
我法例中ニハ婚姻豫約ニ付テ特別ノ規定ナシト雖モ我立法者ハ之ヲ國際私法
上ノ問題トシテ排斥シタルト視ルコトヲ得ス何トナレハ之ヲ排斥スル必要ナ
ケレハナリ故ニ我法例ノ解釋トシテハ總論ニ於テ說明シタルカ如ク所謂條理
ニ依リテ此問題ヲ決定セナルヘカラス而シテ我法例ノ條理ト認ムル所ハ右ニ
説明シタルカ如ク豫約當事者ノ各本國法ヲ以テ準據法ト爲スニ在リ法例第十
三條ノ規定ニ照スモ此解釋ハ強チ不當ニアラナルヘシ但シ婚姻豫約ノ方式ハ
豫約ヲ爲シタル地ノ法律ニ依ルヘキモノト信ス

第二節 婚姻ノ成立

婚姻ノ成立問題即チ婚姻ノ要件問題ニ關スル學說ヲ左ニ略述スヘシ

第一、夫ノ本國法說 此說ハ今日最モ勢力アリ其趣旨ニ曰ク婚姻ノ要件ハ年
齢親族ノ關係等ノ本國ト密著ノ關係アルモノナルノミナラス身分ノ設定若
クハ變更ノ要素ナルカ故ニ本國法ニ依ラサルベカラス而シテ夫ハ婚姻後妻キ

對シテ就御ノ權利ヲ行ヒ且フ或程度オク妻ヲ代表スルモノナルカ故ニ夫ノ本國法ハ妻ノ本国法ニ比シ婚姻成立ノ問題ニ適切ノ關係ヲ有スルモノナリ又將來夫タルヘキ者ノ本国法ニ依リテ將來妻タルヘキ者ノ婚姻要件ヲ定メサルトキハ婚姻ノ本據タル夫ノ本国ノ利益ヲ傷害スル虞アルヘシ云云ト

第二 各當事者ノ本国法說 此說ハ我法例ニ於テモ採用スル所ニシテ婚姻ノ要件ヲ以テ婚姻能力ナリトシ婚姻能力ハ所謂能力ト同一ノ意味ナリト論シ婚姻ノ要件カ各當事者ノ本国法ニ依ルヘキハ能力ニ付キ本國法ヲ適用スル結果ナリト曰ヘリ然レトモ予フ以テ之ヲ觀ルニ能力ハ財產的法律行為ノミニ付テ之ヲ謂フモノニシテ婚姻ノ要件ト關係ナキモノナリ何トナレハ何レノ國ニ於テモ無能力者ニシテ婚姻能力ヲ有スル者比比皆然レハナリ是ニ於テカ各當事者ノ本国法ヲ適用スルハ婚姻ノ要件ハ身分ノ設定若クハ變更ノ要素タルカ故ナリトノ說ヲ贊セナルヲ得ス然レトモ子ハ單ニ此理由ヲ贊成スルノミニシテ第一說ハ最モ論理ノ正確ナルヲ覺ニ而シテ各當事者ノ本国法ヲ適用セントヨル學者ハ往往左ノ説明ヲ爲スアリ曰ク婚姻成立前ニ於テハ男女ハ全ク同等ノ

者トシテ土地臺帳ニ登録セラル者ヨリ其納期ニ於テ納ムヘキ額ヲ徵收スト謂フニ在ルコト何等ニ疑フ容レス故ニ納期前僅數日前ニ於テ所有權ノ移轉アリ土地臺帳ノ記名者フ變更シタル場合ト雖モ其納期ノ地租額ハ後ノ所有者ニ於テ之ヲ納メサルヘカラスニ反シテ所有權ノ移轉アルミ土地臺帳ノ記名者フ變更セサルトキハ地租ハ當ニ舊所有者ニシテ土地臺帳ニ登録セラル者ニ於テ之ヲ納付セサルヘカラス

地租ハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ヨリ徵收スヘキモノトセハ納稅告知書ヲ發シタル後納期ノ到来前ニ於テ土地臺帳記名者變更シタル場合ニ於テハ舊記名者ニ對シテ爲シタル納稅告知書ハ之ヲ取消シ新記名者ニ對シ更ニ納稅告知書ヲ發シテ徵收ノ手續ヲ爲スヘキハ當然ナリ若シ納期ニ入リテ記名者ニ變更アタル場合ニ於テハ舊所有者ヨリ地租徵收ヲ爲スヘキカ將タ新所有者フシテ之ヲ納メシムヘキヤ地租條例ハ此場合ニ關シ特ニ規定スル所ナシト雖モ「地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス」下謂フハ徵收スヘキ時ニ於テ土地臺帳ニ記名セラル者ヨリ之ヲ徵收ストノ意ヲ有スルモノト解セサルヘカラス故ニ嚴正ノ解釋

論ヲ爲ストキハ舊所有者ニシテ既ニ地租ヲ納メタルトキヘ之ヲ以テ完了ト見ナルヘカラスト雖モ舊所有者未タ地租ヲ納メサルトキハ新所有者ヲシテ之ヲ納メシムヘキモノナリト信ス但シ實際ニ於テハ納期中ニ記名者ヲ變更シタル場合ニ於テハ既ニ告知書ヲ發シタルヤ否ヤヲ以テ區別シ既ニ告知書ヲ發シタルモノニ在リテハ其儘舊記名者ヨリ納付ノ手續ヲ爲サムルヲ以テ便宜ト爲スナルヘシ

地租條例第十二條ハ地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收スルコトヲ定ムルカ故ニ地租條例ノ施行上ニ於テハ納期ニ於ケル土地臺帳記名者ハ實ニ其期ニ納ムヘキ地租額ノ納稅義務者ナリ然レトモ元來同條ハ地租條例ノ施行上便宜納稅義務者ヲ定メタルニ過キシテ其效力ハ全ク公法上ノ關係ニ止マルセントス故ニ私法上ニ於テ地租ノ最終負擔者ヲ定ムルコトハ該條ノ關スル所ニアラス各自ハ其契約ヲ以テ地租額ノ全部ハ舊所有者又ハ新所有者ニ於テ之ヲ負擔スヘキコドヲ定メ若クハ新舊所有者ニ於テ其所有ノ日數ニ應シテ之ヲ分擔スヘキコトヲ定ムルコレ其自由ナリトス

原則トシテハ地租ハ所有者トシテ土地臺帳ニ登録セラレタル者ヨリ納付スヘキモノナリト雖モ質入ノ土地ニ限リテハ其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘキモノトス蓋シ質權ノ目的ト爲リタル土地ハ質權者ニ於テ之ヲ占有スルモノニシテ普通ハ質權者其用方ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ民法ニ於テハ現ニ土地ノ負擔ハ質權者ニ於テ之ニ任スヘキコトヲ定メタリ公法上ノ關係ヨリ見ルモ土地ノ負擔ハ現ニ土地ヲ占有フ爲シ其使用收益ヲ爲ス者ラシテ之ニ任セシムルコト微收上便宜多キヲ以テ質入地ノ地租ハ之ヲ質取主ヨリ徵收スヘキモノト爲シタルナリ然レトモ地租條例第十二條ノ規定ハ既ニ述ヘタル如ク公法上特ニ必要トスル理由アリテ設ケラレタルモノニシテ亂法上ノ關係ニ因リテ左右セラルヘキモノニアラサルカ故ニ土地質入ノ場合ニ於テ當事者カ設定行爲ヲ以テ質權者ハ土地ノ負擔ニ任セサルコトヲ定メタル場合ト雖モ國家ニ對シテハ質權者ハ地租ヲ納ムルノ義務ヲ免ルルコト能ハサル也ナリ

第五款 納 期

地租ノ納期ハ明治二十四年法律第二號ヲ以テ之ヲ定メラレタリ該法律ノ全文
左ノ如シ

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス	但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十日ヲ限リ兩期ニ其五 分宛ヲ徵收ス
一期 同九年九月一日ヨリ	山 烟方及ヒ宅地
一期 同九月三十日限	同 五 分
二期 同十一年一月三十日限	同 五 分
三期 同該年十二月十六日ヨリ	同 五 分
三期 同翌年一月十五日限	同 五 分
四期 同二月二十八日限	同 五 分
五期 同三年三月一日ヨリ	同 五 分
六期 同三年三月三十一日限	同 五 分
六期 同五年五月一日ヨリ	同 五 分
六期 同五年五月三十日限	同 五 分
六期 同五年五月三十一日ヨリ	同 五 分

右法文ヲ一見スルトキハ直チニ其掲記スル地目カ有租地ノ地目全部ニアラサ
ルコトヲ發見スヘシ即チ該法律ノ文字ノミニ就テ之ヲ謂フトキハ鹽田領泉地
池沼雜種地ノ四地目ニ關スル地租ニ付テハ其納期ノ規定ナキモノト謂ハサル
ヘカラス然レトモ法律全體ノ精神ヨリ見レハ市街宅地ノ如ク普通月額ヲ以テ
其質貸料ヲ定メ毎月之ヲ收入スルモノニ在リテハ地租年額ヲ二分シ之ヲ其年
七月及ヒ翌年一月中ニ徵收シ田地ノ如ク秋收ヲ經テ始メラ其果實ヲ取得スル
コトヲ得ルモノニ在リテハ地租年額ヲ四分シ米穀ノ賣拂ニ因リテ得タル金錢
ヲ以テ其四分ノ一ツヲ納付スルコトヲ得セシムモノトシ其他ノ土地ニ開
スル地租ハ總テ年額ヲ二分シ其年九月及ヒ十一月中ニ之ヲ納メシムルノ趣旨
ナリト謂フコトヲ得ヘキカ故ニ鹽田領泉地等ノ地租モ亦其年額ヲ二分シ九月
及ヒ十一月ニ於テ各其二分ノ一ヲ徵收スヘキモノトス

以上ハ地租ノ納期ニ關スル一般ノ規定ナリ鹿兒島縣下ニ於ケル離島ノ如キハ
大海ニ懸絶セラレ交通不便ニシテ規定ノ納期ニ地租ヲ納ムル能ハサルノ事情
アルヲ以テ明治三十年法律第五號ヲ以テ左ノ如ク規定シ以テ一般規定ニ對ス

ル一ノ例外ヲ設クルコトセラレタリモ或ニ歲々幾度モ其地主ノ賦稅を徴取スル者也。鹿兒島縣管下大隅國大島郡及ヒ薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收スル者也。大隅國大島郡ノ内大島德ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島。

翌年五月一日ヨリ同三十日限内、薩摩國川邊郡ノ内硫黃島、竹島、黑島、口ノ島、中ノ島、平島、諏訪ノ瀬島、吼蛇島、惡石島、寶島。

翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限内、右ノ島嶼ニ於ケル地租ハ其地目ノ如何ニ關セス總テ之ヲ取纏メ右明治三十年法律第五號ノ定メタル納期ニ於テ之ヲ納ムヘキモノナリ。其他地租條例ノ施行ナキ北海道ニ於ケル地租ノ納期ハ明治二十二年大藏省令第十二號ヲ以テ特別ニ之ヲ定メ沖繩縣及ヒ東京府管轄伊豆七島、小笠原島ノ如キ舊慣ニ依リテ地租ヲ徵收スル地方ニ於ケル地租ノ納期ハ一ニ其舊慣ノ定ムル所ニ從フモノナリ而シテ沖繩縣ハ土地整理完了ト共ニ地租條例ヲ施行セラル。

ルニ至ルヘシト雖モ地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキヨリ沖繩縣土地整理法第二十四條ノ規定スル所ナルカ故ニ該縣ノ如ク氣候風土ノ内地ト同シカラス而モ其交通ニ便宜ヲ缺クコト尠カラサル地方ニ關シテハ勅令ノ定ムヘキ地租徵收期限ハ内地一般ノ納期ト自ラ異ナル所アルヘキハ殆ト言フヲ須ヒ。

第六款 土地ニ關スル申請申告

既ニ述ヘタル如ク錄下年期新開免租年期地價括置年期荒地免租年期低價年期造林地免租年期ノ許可及ヒ砂防法ニ依ル地租人免除又ハ輕減ノ出願ヲ待テ始メヲ之ヲ與フルモノナルカ故ニ之カ許可ヲ受ケントスル者ハ其土地ヲ表示シ許可ヲ受クヘキ事由ヲ明ニシ所轄稅務管理局長ニ申請セナルヘカラス(地租條例施行規則第一四條明治三十二年勅令第三百七十四號土地ヲ表示スルニ當リ時トシヲハ文字ノミヲ以テ之ヲ爲スコト容易ナラナル場合ナキニアラス此ノ如キ場合ニ於テ申請者カ地圖ヲ添附シテ圖解ヲ爲スハ官民共ニ便トスル所ナ

ルヘシト職モ法令ハ之ヲ以テ申請者ノ義務トヲ爲サナリシカ故ニ土地ヲ表示スル方法ハ一ニ申請者ノ選フ所ニ任スヘキモノトス但シ申請書ニ掲タル所ノ土地ノ表示明瞭ナラサル場合ニ於テ税務管理局長カ申請者ヲシテ之ヲ明ニセシムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ質權ノ目的タメ土地ニシテ荒地ト爲リタル場合又ハ銀下年期若クハ新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ質權ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其荒地免租年期若クハ低價年期ノ申請又ハ銀下年期若クハ新開免租年期ノ繼年期申請ハ何人ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ此問題ニ對シテハ議論ハ自ラ所有者說質取主說及ヒ所有者質取主共同說ノ三說ニ分ルモノノ如シ所有者說ヲ主張スル者ハ地租條例カ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定スル場合ニ於テ常ニ申請又ハ申告ヲ爲スヘキ者ヲ明示セサルヲ論據トスルモノニシテ土地ニ付キ法令ニ於テ何等主格ヲ指定スルコトナクシテ申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルトキハ常ニ其所有者シテ之ヲ爲サシムルノ意ナリト解スルコト當然ナルヲ以テ此場合ニ於テ所有者ニ於テ年期又ハ繼年期ノ申請ヲ爲スヘキモノト爲ス

コト法文解釋ヨリ生スル當然ノ結果ナリト謂フモノナリ質取主說ヲ維持スミ者ハ専ラ地租條例第十二條ニ依リテ立論スル者ニシテ其議論ハ年期又ハ繼年期ノ許可ハ一定ノ期間地租ヲ免除スルカ若クハ比較的低輕ナル地租ヲ徵收スルヲ謂フモノナルカ故ニ之カ申請ハ納稅義務ニ關スル免除又ハ輕減ノ申請ナリ故ニ其申請ヲ爲シ得ル者ハ獨り納稅義務者アルノミ而シテ質入ノ土地ニ付テハ地租條例第十二條ニ依リ質取主其納稅義務者ナルヲ以テ年期又ハ繼年期ノ申請ハ質取主獨り之ヲ爲スコトヲ得ト謂フニ在リ所有者質取主共同說ニ至リテハ前二説ノ折衷論ニシテ質取主ハ質入ノ土地ニ付フハ其納稅義務者ナルヲ以テ年期又ハ繼年期ノ許可ニ付テハ最モ利害ノ關係ヲ有スト雖モ所有者モ亦之ニ關シテハ質取主ニ讓ラサル利害關係アルモノナリ何トナレハ所有者ハ時トシテ質權ノ設定行為ヲ以テ私法上ニ地租ノ負擔ヲ爲スヘキ者ト爲ルコトアル者ナルノミナラス經令此ノ如キ特約ナキ場合ト雖モ質權消滅ノ後ハ自ラ納稅義務者ト爲ル者ナルヲ以テ年期又ハ繼年期ノ許可アリシト否トハ其利害ニ影響スルコト尠カラサルヲ以テナリ此ノ如ク兩者ノ利害ニ關スル事項ハ

兩者ノ一二於テ其申請ヲ爲スヘキモノニアラス必スヤ其共同ヲ以テ之カ申請ヲ爲ササルヘカラスト爲スモノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ以上ノ三説ハ法文ニ拘泥シテ寧ロ其精神ヲ遺ルノ非難ヲ免レサルカ如ジ元來年期又ハ年期ノ繼続ナルモノハ納稅者ノ義務ヲ免除シ又ハ之ヲ低下ニ据置クモノニシテ決シテ之ヲ増加スルモノニアラサルカ故ニ立法論トシテ言ハ之カ申請ハ特ニ所有者又ハ質取主ノ其一二限ラサルヘカラサルノ理由アルモノニアラス一方ニ於テハ既ニ兩者ノ一二限ルノ必要ナキモノニシテ而モ兩者各之ヲ申請スルニ付キ重大ナル利害關係ヲ有シ他ノ一方ニ於テハ法律命令共ニ明ニ年期又ハ年期ノ繼續ヲ申請スヘキ者ヲ定メサリシトセハ法律ノ意ハ所有者又ハ質取主ヲシテ各之カ申請ヲ爲シ以テ自己ノ利益ヲ保留スルヲ得セシムルニ在リシモノト謂ハサルヘカラス若シ然ラスシテ前三説ノ其一ノ如クスヘキモノノトセハ所有者又ハ質取主ハ他ノ怠慢又ハ故意ノ爲メ其受クヘキ利益ヲ享有スル能ハサルニ至ルコトアルヲ免レスノ解説ヲ取レハ法律ノ規定ハ故ナクシテ他人ノ怠慢又ハ故意ノ爲メ各自ノ受クヘキ利益ヲ完ウスル能ハサルニ至ラシムルモ

ノト爲リ他ノ解釋ニ依レハ此ノ如キ結果ヲ生セサルコトヲ得トセハ後者ノ解釋ニ從フコト最モ繼當トスヘキニアラスヤ故ニ質入地ニ關シテハ其荒地免租年期若クハ低價年期又ハ鉢下年期若クハ新開免租年期ノ繼年期ハ所有者及ヒ質取主ノ共同ヲ以テ之ヲ申請スルコト最モ便宜トズル所ナルヘシト雖モ若シ兩者共同スル能ハサル場合ニ於テハ其一方ニ於テ單獨ニ之カ申請ヲ爲スヲ得ヘキモノト爲スコト地租條例ノ精神ト一致スルモノナリト信ス
以上叙述スル所ハ渾テ出願ニ依リ納稅義務者ノ利益ト爲ルヘキ許可ヲ受クル場合ニ保ルモノナリ故ニ所有者又ハ質取主ニシテ其利益ヲ受クルヲ欲セサルトキハ申請ヲ爲サシテ可ナリ以下ニ記述セントスル所ハ之ニ異ナリ行政上ノ必要ニ依リ土地所有者又ハ質取主ヲシテ必ス申請又ハ申告ヲ爲サシムルモノナルカ故ニ規定ノ場合ニ於テハ所有者又ハ質取主ハ任意ニ之ヲ省略スルヲ得サルモノナリ行政一般ノ上ニ於テハ土地ニ關シ種種ナル申請又ハ申告ヲ爲スヘキコトヲ命スト雖セヨ地租事務ニ影響ナキモノハ之ヲ擧タルノ必要ナキカ故ニ茲ニハ土地ニ關スル申請又ハ申告ニシテ地租事務ニ關聯スルモノノミニ付

年提出スヘキ官廳公署ニ依リテ區別シ其大要ヲ説明スヘシ

甲 地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキ場合

土地ノ異動ニシテ地租ニ關係アルモノノ中地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキモノ左ノ如シ

一 有租地ヲ鄉村社地ト爲サントスルトキ(明治十一年内務省乙第五十七號達第一條、第二條) 明治十一年内務省乙第五十七號達ハ社寺ノ創建又ハ移轉廢合等ニ付キ願出ヲ爲スヘキコトヲ定ムト雖モ此等ノ出願ヲ爲スニ當リテハ社寺ノ地所ヲ指定スヘキモノナルヲ以テ鄉村社ノ許可ハ自ラ同時ニ有租地ヲ鄉村社地ト爲スノ許可ト爲ルモノトス

二 有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルトキ(明治十七年太政官第二十五號布達墓地及ヒ埋葬取締規則第八條及ヒ同年内務省乙第四十號達ニ本キ警視廳及ヒ府縣ハ廳府縣令ヲ以テ墓地ノ取廣メ又ハ新設ハ必ス之ヲ出願スヘキモノト定メタルヲ以テ有租地ヲ墳墓地ト爲サントスルトキハ地方長官東京ニ於テハ警視總監ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカラス

三 売租地ヲ有租地ト爲サントスルトキ(地租條例第一條) 地租條例ニ於テ免租地ト稱スルハ其第四條ニ掲タル土地ヲ謂フカ故ニ第四條ニ掲タル土地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ常ニ地方長官ニ申請シテ其許可ヲ受ケサルヘカラス鄉村社地又ハ墳墓地ノ如ク信仰上ノ關係又ハ警察上ノ取締ノ爲メ其創設ノ場合ニ於テ許可ヲ受ケシタルモノハ之ヲ廢止スル場合ニ於テモ亦許可ヲ受ケシムルコト當然ナリト雖モ其他ノ土地ハ當初第四條ニ該當スルニ至リタルトキニ於テハ何等ノ許可ヲ要セナリシニ其供用廢止ノ場合ニ限リ地方長官ノ許可ヲ受ケサルヘカラナルハ其理由ヲ了解スルニ苦シムト雖モ恐クハ此ノ如キ土地ハ一旦其供用ヲ爲シタル以上ハ其廢止ハ所有者以外ノ者ノ利害ニ關係コトナキニアラナルモノナルヲ以テ地方長官ニ申請セシメ以テ廢止ノ爲メニ甚シク利益ヲ害セラルル者ナカラシメントスルノ意ニ出テタルナルヘシ

四 森林ノ開墾ヲ爲サントスルトキ(明治三十年法律第四十六號森林法第六條) 森林ナルモノハ水源氣象防水等種々ノ點ニ於テ地方ノ公安ト關係ヲ有スルモ

ノナルヲ以テ之カ保存ハ公衆ノ福利ニ關スルコト勘カラサルモノナリ故ニ法
律ハ森林ノ開墾ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘキモノト爲シ以テ私益
ノ爲メニ公益ヲ犠牲トスルカ如キコトナカラシメントヲ期シタリ而シテ森
林法ノ所謂開墾ナルモノハ山林ヲ變シテ燒烟、切替烟ト爲ス場合又ハ山林ヲ伐
採シテ之ヲ有租地第二類地中ノ他ノ地目ト爲ス場合ヲモ包含スルモノナルカ
故ニ森林法第五十二條地租條例ニ於テハ開墾ト稱スル場合ハ勿論開墾ト稱セ
シシテ地目變換ト稱スル場合ト雖モ苟モ森林ヲ伐採シテ他ノ地目ト爲ス場合
ニ於テハ森林法ハ之ヲ以テ開墾ト爲スカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ必ス之ヲ
地方長官ニ申請シ其許可ヲ受ケサルヘカラサルモノトス
地租ニ關係アル土地ノ異動ニシテ地方長官又ハ警視總監ニ申請スヘキ場合ハ
凡ソ右ニ舉タル所ノ如シ而シテ其孰レノ場合ニ於テモ法律カ土地所有者ヲシ
テ申請ヲ爲サシムル所以ノモノハ専ラ公安ヲ維持セントスルノ趣旨ニ出ツル
モノニシテ地租徵收上ノ必要ニ因ルモノニアラス然レトモ土地所有者ニ於テ
既ニ地方廳又ハ警視廳ニ申請ヲ爲シタル以上ハ該官廳ヨリ其異動ヲ稅務官廳

ニ通知シ以テ地租徵收上ノ必要ニ應スルノ便アルヲ以テ所有者ヲシテ同一事
項ニ付キ更ニ稅務管理局長ニ申告ヲ爲サシムル代リニ明治三十一年內務省訓
令第四一〇號同年大藏省訓令第一〇九二號明治三十二年大藏省訓令第三十二
號及ヒ明治三十一年大藏省訓令第七十二號ハ官廳間ニ於テ通知ヲ爲シ以テ地
租事務ノ處理ヲ了スヘキモノト爲シタリ
免租地ヲ有租地ト爲ストキハ地價ヲ設定セサルヘカラサルカ故ニ此場合ニ於
テハ所有者ヲシテ測量開ト共ニ其土地ノ見積地價ヲ申立テシムルコト稅務官
廳ノ最モ便トスル所ナルヘシト雖モ法令ハ此事ニ付キ何等ノ規定スル所ナキ
ヲ以テ有租地ヲ免租地ト爲シタル場合ニ於テハ稅務官廳ハ常ニ自ラ進ク土地
ヲ丈量シ地價ノ査定ヲ爲スヘキモノト謂ハサルヘカラス

乙 稅務管理局長ニ申告スヘキ場合
左ノ場合ニ於テハ所有者又ハ質取主ハ稅務管理局長ニ申告スルコトヲ要ス
一 有地租ヲ用惡水路溜池隄塘井溝鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路水道用地
及ヒ傳染病院隔離病舍隔離所消毒所ノ敷地ト爲ストキ地租條例施行規則第一

五條第一項第一號 地租條例施行規則ノ制定セラレタル當時ニ於テ法律上無期ニ地租ヲ免スヘキ土地ハ茲ニ掲タルモノノ外ハ公立學校地鄉村社地墳墓地及ヒ保安林ニ過キス公立學校ハ郡長府縣知事等ニ於テ之ヲ定メ之ヲ稅務管理局長ニ通知スルモノナルカ故ニ(明治三十二年文部省訓令第五號之ニ付テ更ニ申告セシムルノ必要ナシ郡村社地墳墓地ノ取廣又ハ新設ニ付テハ既ニ達ヘタル如ク地方長官ニ申告セシムルヲ以テ稅務官廳ハ既ニ之ヲ知ルノ途ヲ有スルモノナリ保安林ノ編入解除ニ至リテハ官報及ヒ府縣公報ヲ以テ之ヲ告示スルカ故ニ森林法第一七條是レ亦稅務官廳ニ申告セシムルノ必要ヲ見ナルモノナリ故ニ地租條例施行規則第十五條第一項第一號ハ地租條例施行規則發布當時ニ於テハ有租地ヲ免租地ト爲シタルトキヘ所有者ノ申告アルニアラカレハ稅務官廳ハ他ニ之ヲ知ルノ途ナキ場合ヲ網羅シタルモノナリ然ルニ明治三十三年法律第十九號ノ發布セラルニ至リ地租ヲ免スル土地ハ大ニ其種類ヲ増加シタルカ故ニ之カ届出方ニ付テハ早晚更ニ規定セラル所アルヘシト雖モ現今ハ尙ホ未タ何等ノ規定ナキヲ以テ所有者ハ之カ申告ニ關シ規定上ノ義務ヲ有

スルコトナシ但シ所有者ニシテ該法律ニ依リ免租ノ特典ヲ得ントセハ稅務官廳ヲシテ土地カ該法律ニ該當シタルコトヲ知ラシメサルヘカラナルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ自ラ所有者ハ進テ其申告ヲ爲スニ至ルモノナルヘシ
二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ地租條例第一〇條第一項地租條例施行規則第十五條第一項第二號 地租條例ハ地方廳ニ届出ツヘキコトヲ定ムト雖モ官制ノ改正ニ因リ租稅ニ關スル事務ハ稅務管理局長ノ職務ニ屬シタルカ故ニ施行規則ハ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツヘキモノト爲シタルナリ又森林ニ關シテハ森林法ハ地租條例ニ於テ地目變換ト爲スモノヲモ之ヲ開墾ト爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケシムルコト既ニ述ヘル如シ而シテ地目變換ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做スコト地租條例施行規則第十條ノ定ムル所ナルカ故ニ森林ヲ變換シテ牧場又ハ原野等ト爲ナントシ地方長官ノ許可ヲ得タルモノハ更ニ地目變換トシテ之ヲ稅務管理局長ニ届出ツルヲ要セナルモノナリ
三 開墾ヲ爲ナントスルトキ開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

(地租條例第一六條第一項地租條例施行規則第一五條第一項第三號)開墾ニ關シテモ亦地租條例第十六條ハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘキモノト爲スト雖モ官制改正ノ結果同條ノ所謂地方廳ナルモノハ之ヲ稅務管理局ト解セサルヘカラス且ツ許可ヲ受ケタル開墾ニ關シテハ更ニ届出ヲ要セナルコト地目變換ノ場合ニ同シ(地租條例施行規則第一〇條成功ト廢止トノ申告ハ事實成功又ハ廢止ヲ爲シタルトキニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ開墾後十年目又ハ開墾後下年期明ノ時ヲ待フヘキモノニアラス但シ銀下年期明ノ時ニ至リ成功シタルモノハ年期明ノレ告ト共ニ成功ノコトヲ届出テ可ナリ

四、官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニ付キ銀下年期ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキ地租條例施行規則第一五條第一項第四號)開拓地又ハ新開地ニ付テハ銀下年期又ハ免租年期ノ許可ヲ受クルコトヲ得ルモノナリト雖ニ年期ノ許可ハ所有者ノ出願ヲ待テ始メテ之ヲ與フルモノナルカ故ニ所有者ニ於テ之ヲ出願セサルトキハ其地ノ現況ニ依リテ地價ヲ設定セナルヘカラス故ニ所有者ヨリ開拓又ハ新開ニ因リテ民有ト爲シタル旨ヲ申告

セシメ地價設定ノ手續ヲ爲サントシタルモノナリ

五、開墾銀下年期明開拓銀下年期明、新開免租年期明、地價据置年期明荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタルトキ(地租條例施行規則第一五條第一項第五號)地租條例施行規則其他ノ法規ニ於テハ造林免租年期ニ關シテハ年期明ニ至ルモ申告ヲ爲スヘキコトヲ定メズ蓋シ地價ヲ有スル土地ニシテ免租年期ヲ受ケタルモノハ年期明ニ至レハ當然其地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ別ニ之カ申告ヲ爲ナシムルノ必要ナキヲ以テナリ之ニ反シテ地租條例施行規則第十五條第一項第五號ニ掲タル年期ヲ有スル土地中ニハ年期明ニ至リ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルモノアリ其地價ノ設定又ハ修正ヲ要セナルモノト雖モ登録ヲ納メサルヘカラナルヲ以テ年期明ニ於テ申告ヲ爲サンメ以テ地租事務ノ處理又ハ登録税ヲ徵收ニ便ナラシタルナリ

六、土地ノ合併又ハ分割ヲ爲サントスルトキ(地租條例施行規則第一五條第一項第六號)土地ノ合併ハ當ニ所有者ノ意思ニ依リテノミ之ヲ爲スト雖モ其分割ハ或ハ所有者ノ意思ニ依リ或ハ所有者ノ意思ヲ領タスシテ之ヲ爲スモノナル

コト既ニ説明シタル如シ而シテ所有者ヲシテ土地分合ノ申告ヲ爲ナシムルベ
其意思ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ニ限ルヘキハ勿論ナルヲ以テ施行規則第二條
ニ依リ所有者ノ意思ヲ問ハスシテ土地ヲ分割スル場合ニ於テハ所有者ハ申告
ヲ爲スヲ要セサルモノナリ

七 土地ノ所有者又ハ質取主其住所氏名ヲ變更シタルトキ(明治二十二年大藏
省令第六號土地臺帳規則施行細則第二條) 土地ノ所有權ノ移轉又ハ質入ハ登
記所ノ通知ニ因リテ之ヲ土地臺帳ニ登録スヘキモノナルカ故ニ不動產登記法
第一條第一項土地臺帳規則第三條 土地臺帳規則施行細則第五條所有者又ハ
質取主ヨリ更ニ之ヲ稅務管理局長ニ申告セシムルノ必要ナシト雖モ其住所又
ハ氏名ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ申告セシムルニアラナレハ稅務官廳ハ
之ヲ知ルノ途ナキヲ以テ此場合ニ限リ特ニ之カ届出ヲ爲スヘキコトヲ定メ
ルナリ

前記一ヨリ七ニ至ルノ場合ニ於テ申告者ハ其申告スヘキ事項ニ應シ其事實ヲ
明瞭ナラシムルコトヲ期シテ届出ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ其地價ノ設定

又ハ修正ヲ要スル場合ニ在リテハ近傍類地ト地力ヲ比較シ相當ト認ムル地位等
級ヲ見積リ之ヲ申告書中ニ記載シ且ツ土地ノ測量圖ヲ添附シテ提出スヘキモ
ノトス地租條例施行規則第一五條第二項元來土地ノ丈量及ヒ地價ノ查案ハ地
租條例ニ依リ政府當然其職權ヲ有スト雖モ多數ノ土地ニ付キ一一當該官吏ニ
於テ丈量及ヒ查案ヲ爲ストキハ事務ノ進捗大ニ遲延スヘキハ勿論所有者ハ爲
メニ屢々立會ヲ爲ス等ノ煩ヲ免レス特ニ當該官吏ノ職權ヲ以テ查案シタル地價
ハ時ニ所有者ノ見込ム所ト大ニ異ナル所アリ其間圓満ナル結果ヲ得難キコト
ナキニアラス故ニ施行規則ハ所有者ニ命スルニ測量圖ノ提出ヲ以テシ當該官
吏ヲシテ實地丈量ノ結果所有者ノ提出シタル測量ハ精確ナルモノナリトノ心證
ヲ得タルトキハ一班ノ丈量ニ依テ他ノ實地丈量ヲ省略シ以テ事務ノ進捗ヲ計
ルノ便ヲ得セシメ且ツ所有者ヲシテ常ニ設定又ハ修正スヘキ地價ノ見込ヲ申
出テ以テ當該官吏ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得セシメタルナリ予ハ前ニモ論シ
タル如ク土地ノ分合ヲ爲シタル場合ニ於テ其新區域ニ對シ地價ヲ附スルハ地
價ノ設定ニ外ナラスト爲ス者ナルカ故ニ土地ノ合併又ハ分割ヲ申告スル場合

ニ於テモ亦施行規則第十五條第二項ヲ適用セラルモノナリト信ス又地價ノ復舊ハ地價ノ設定ニアラスト爲ス者ナルヲ以テ荒地免租年期明及ヒ低價年期明ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ測量圖等ハ之ヲ要セナルモノナリト信ス

丙 市區町村長又ハ戸長ニ申告スヘキ場合
地租ヲ納ムヘキ者其土地所在地ノ市區町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲メ其市區町村内ニ住居スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其市區町村長又ハ戸長ニ申告スルコトヲ要ス(地租條例施行規則第一六條)
地租ヲ各納人ヨリ徵收スルコトハ市町村ノ事務ナルヲ以テ市町村内ノ土地ニ付キ地租ヲ納ムヘキ者其市町村内ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ市町村ハ地租徵收上ニ便宜ヲ缺クコト尠カラズ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ納稅管理人ヲ定メシメ其者ヲシテ本人ニ代リテ地租納付ノ取扱ヲ爲サシムヘキモノト爲シ豫メ其人ヲ指定シテ申告スヘキモノト爲シタルナリ施行規則第十六條ノ所謂地租ヲ納ムヘキ者トハ所有者質取主共ニ之ヲ指スモノニシテ同條ノ用語中ニ「其所有土地所在地ナル文字アルノ故ヲ以テ之ヲ單ニ所有者ノミ

ヲ指シタルモノト解スヘカラズ

第七款 土地臺帳

租稅ヲ賦課徵收スルニハ相當ノ帳簿ヲ備ヘ其課額及ヒ納否ヲ明瞭ナラシメサルヘカラス地租ニ關シテモ亦勅令又ハ訓令ハ種種ノ帳簿ヲ設クヘキコトヲ命シ以テ之カ賦課徵收ノ用ニ供スルト雖モ其中ニ就キ最重要ナルモノヲ舉クレハ先フ指ヲ土地臺帳有租地集計簿地租名寄帳ノ三者ニ屬セサルヘカラス土地臺帳ハ之ヲ稅務署ニ備フルモノニシテ地圖ト相待テ土地各筆ノ現狀ヲ明ニシテ地租負擔ノ基礎ヲ定ムルモノナリ有租地集計簿及ヒ地租名寄帳ハ其ニ土地臺帳ニ依リテ調製シタルモノニシテ前者ハ之ヲ稅務署ニ備ヘ每納期市町村ノ徵收スヘキ地租總額ヲ之ニ通知スルノ根據ト爲ルモノニシテ後者ハ之ヲ市町村ニ備ヘ每納期納稅義務者ノ納ムヘキ地租額ヲ之ニ告知スルノ憑據ト爲ルモノナリ地租ヲ賦課徵收スルニハ三者其一ヲ缺クヘカラスト雖モ而モ地租算出ノ根基タル地價ハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フモノニシテ(地租條例第一條)且

フ地租納付ノ主體ハ土地臺帳ニ登録セラレタル所有者又ハ質取者ナルヘキコト地租條例第一二條既ニ述ヘタル如クナルヲ以テ土地臺帳ハ實ニ地租ニ關スル帳簿ノ主體ナリ特ニ沿革ニ溯リテ之ヲ言ヘハ我邦ノ土地臺帳ナルモノハ地券臺帳ナル土地ノ所有權及ヒ其地租ニ關スル登録ヲ爲スヘキ帳簿ヲ繼承シタルモノニシテ其起源ニ於テハ所有權ヲ明確ニスルコトモ亦土地臺帳ノ目的ノ一タリシナリ現今ニ於テモ尙ホ民有地ニシテ不動產登記簿ニ登記セラレナルモノニ關シテハ土地臺帳ハ其所有者ヲ明カニスル唯一ノ公簿ナルカ故ニ所有權ニ關スル帳簿トシフモ亦甚大切ノモノト爲ス故ニ茲ニハ專ラ土地臺帳ニ付キ其登錄事項所管官廳登錄手續、原本請求ニ關シ概略ヲ説述セントス

第一 土地臺帳登録事項

土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登録スルモノナリ(明治二十二年勅令第三十九條土地臺帳規則第一條地租ニ關スル事項トハ稍ヤ漠然タルヲ以テ土地臺帳規則施行細則明治二十二年大藏省令第六號第一條ハ之ヲ細目ヲ舉ケ土地臺帳ハ市町村毎ニ區別シ土地ノ字番號地目、段別、等級地價、地租、所有者及ヒ質取主ノ住

明治三十三年十二月六日印刷

明治三十三年十二月十日發行

講義錄ハ各部毎月二回發行シ滿一个年ヲ以テ
卒業トス
一个年ヲ以テ完了セサルトキハ號外ヲ發ス
講義錄ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ

第一部 每月 五 日 二十日

第二部 每月 十 日 廿五日

第三部 每月 十五日 三十日

一月謝金・全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入

學金ヲ要セス

在校外生ハ本校講義會、討論會ニ出席傍聽スル

コト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雑誌ハ特別ノ

廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得

在校外生卒部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校

内生三年級・攝入セラルコトヲ得

校外生ハ講義錄中ノ疑義ニ付キ質問スルコト

ヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返

信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス

三个月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス

一月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會

計係宛トスヘシ

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地
東京市芝區久保明舟町十一番地
印 刷 所 司 法 省 金 子 活 版 所
發 行 所 指 定 和 佛 法 律 學 校
(電話番号百七十四番)

明治廿二年十二月九日 内路省許可